Ⅲ. 専　門　分　野

必修科目 （1）

科目	看護の原理	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：瀧　　泉

講義の概要および学習目標	看護学を学ぶためには、看護実践に潜む本質をつかむ必要がある。この科目では、ナイチンゲール看護論を基に、看護の基本的な考え方を学ぶ。誰かを看護するとはどういうことか、本来人間とはどのような存在か、人の生活や取り巻く環境も含め、思考の土台を作っていく。看護の専門家をめざすために、人としての倫理はもとより、看護学生としての倫理についても考える。 また、社会の中で保健医療サービスを提供するシステムと、そのシステムの中で機能する看護の役割について学ぶ。 《学習目標》 １　看護の主要な概念を理解する ２　看護の本質、看護独自の役割と機能、看護の今後の方向性について考える ３　自己の看護に対する考えを述べる
講義内容	１　専門職としての看護 ２　看護の変遷をたどる−どのように看護が発展してきたか ３　看護一般論の必要性と有用性 ４　看護とは何か　−　ナイチンゲール看護論から看護の本質をつかみとる ナイチンゲールの三重の関心 看護のための対象論 ５　健康と看護 ６　看護の機能と役割 ７　保健医療システムと看護 ８　看護における倫理，看護学生としての倫理
評価法	課題レポート 授業出席状況、参加度
受講生への要望	受講生の皆さんには「看護への関心や意欲をもって主体的に学習し、考えて行動できる看護師」をめざしてほしいと願っています。「人間」「生活」「健康」など馴染みのあることを、看護を考える土台になるよう深く考えていきます。難しい、苦手と思わず、これまで知っているつもりになっていたこと、知らなかった新しい見方に出会える時間になると思います。みんなでたくさん話をしながら、楽しく学んでいきましょう。 またレポート等の提出物は期日や時間を厳守してください。 遅れた場合は減点処理しますので注意してください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野 「看護学概論」／茂野　香おる　他／医学書院 2）　　〃　　別巻 「看護史」／杉田　暉道　他／医学書院 3）　　〃　　別巻 「看護倫理」／宮坂　道夫　他／医学書院 4）科学的看護論　第3版／薄井　坦子／日本看護協会出版会 5）ナイチンゲール看護覚え書／ F. ナイチンゲール／現代社 6）ナースが視る人体／薄井　坦子／講談社 7)ナースが視る病気／薄井坦子／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1）ナイチンゲール伝　図説 看護覚え書とともに／茨木　保／医学書院 2）看護学原論講義〔改訂版〕／薄井　坦子／現代社 3）がん看護へのことづて／武田　悦子／すぴか書房 4）DVD看護教育概論　アメリカの看護／ライダー島﨑　玲子／医学映像教育センター 5）DVD看護教育概論　日本の看護 ／ライダー島﨑　玲子／医学映像教育センター 6）DVD「いのちがいちばん輝く日」−あるホスピス病棟の40日−／溝渕雅幸監督作品

必修科目 （2）

科目	看護のための認識論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	看護師：宮田　芳衣 看護師：河内　友子 看護師：倉持有希子

講義の概要および学習目標	人間はからだとこころを持っている。からだ（実体）は見えるし触れることができる。しかし、こころ（認識）は頭脳の働きであるから見えないし触れない。自分の認識を伝え、相手の認識を知るためには、表現し合うことが必要であるが、認識＝表現ではないため、行き違いが起きてしまうことがある。看護専門職は、人を相手にする仕事であるため、行き違いを起こさないように相手の認識を理解する能力の向上が必須である。そこで、この科目では人の認識とは何か理解し、相手の立場に立つことを論理的に学び、自分の体験を題材にして相手の立場に立つ考え方を練習していく。繰り返し練習していくことで、立場を変換する力が鍛えられ、看護の質の向上だけではなく、日常生活を豊かにすることにもつながる科目である。 《学習目標》 １　起こっている事象・現象における法則性（認識の三段活用）を日常で活用する ２　立場の変換過程を意図的に行い、他者との関係を豊かにするための方法を考える
講義内容	１　人の認識とは ２　看護と認識の関係 ３　モデル図（人間一般、円錐、人間関係） ４　観念的二重化、日常の中の体験を通して練習 ５　認識発展の三段階、のぼりおりの練習 ６　認識論を意図的に使いながら、身近な人との関係を発展させるための調和的解決方法を見出す。
評価法	各授業でのレポート　最終レポート
受講生への要望	皆さんの生活の中で起きたことを題材にして、学習していきます。日常生活でコミュニケーションをたくさん行ってください。 認識論では、相手の頭の中を考える方法を教授します。その考え方を使って、相手から表現されたことを手掛かりに、相手の頭の中を考える学習ですので、教員が答えを知っている、正解がある、暗記する、という授業ではありません。教員も皆さんと一緒に考えていきます。互いの体験を通して、みんなで成長していけるように、表現すること、聞くことを意識して授業に取り組んでください。
テキスト	書名／著者名／発行所 基礎看護学の冊子
参考文献	書名／著者名／発行所 科学的看護論　第3版／薄井　坦子／日本看護協会出版会

必修科目 （3）

科目	看護の方法Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：宮田　芳衣 看護師：松本　理恵

講義の概要および学習目標	看護師は人々と出会った時、看護を必要としているか”見抜く”ことをしている。”見抜く”ためには看護師の五感と知識と技術を総動員して、その人をみつめることから始まる。看護の対象である人をみつめることができるようになるための観察の意義と方法を学び、対象の健康状態を把握するための観察技術、バイタルサイン測定技術を習得する。 そして、得られた情報は何を意味しているのか、知識とつなぎ合わせて査定（アセスメント）することを学ぶ。 看護の対象をさらに深く知り、必要な看護を提供していくために、かかわりを通して関係を築いていくためのコミュニケーションの意義と技術を学ぶ。 看護はチームで行うため、チームで情報を共有すること、正しく伝えることの意義を理解し、観察やコミュニケーションで得られた情報を整理するための記録について学ぶ。 《学習目標》 看護する目的での観察方法を学び、かかわりを看護に発展させるためのコミュニケーションを学ぶ。そして、得られた情報を整理するための記録について理解する。
講義内容	１　看護におけるコミュニケーションの意義・技術 ２　あいさつ・礼儀作法・他者からみて感じの良い振る舞い ３　看護をするための観察・観察方法 ４　フィジカルアセスメントとは ５　バイタルサイン ６　体温とは、循環とは、呼吸とは ７　バイタルサイン測定技術の習得 ８　看護記録
評価法	バイタルサイン測定技術チェック 修了試験・小テスト 課題レポート
受講生への要望	自分の行為が看護となるためには、技術の正確さのほかに援助を行う自らの姿勢が問われます。学習にまじめに取り組んでもらうことはもちろんですが、日々の自らの生活やコミュニケーションを見つめ、振り返ること、周囲の人と関係を築いていくことも望みます。 循環・呼吸・体温は、解剖生理学や看護のための人間論で同時期に学びますので、得た知識を復習してこの授業に臨んでください。バイタルサイン測定技術は、生命維持の徴候の変化に気づくための基本的、かつ重要な技術です。そのため、正しい情報が得られ、対象にとって安全で安楽な測定技術を身に付けましょう。 看護技術は手順だけ覚えても、実際に患者さんに行うことは難しいです。看護技術を行う意味・根拠を理解しながら、仲間とともに繰り返し練習し、身に付けていきましょう。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅰ」／藤崎　郁 他／ 医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」／藤崎　郁 他／ 医学書院 3）フィジカルアセスメントガイドブック／山内　豊明／医学書院 4）からだの地図帳／佐藤　達夫／講談社 5）ナースが視る人体／薄井　担子／講談社 6）ナースが視る病気／薄井　担子／講談社 ＊基礎看護学の冊子（授業で配布します）
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目 （4）

科目	看護の方法Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：宮田　芳衣

講義の概要および学習目標	私たち看護師は、目の前のその人にどのようなことが援助として必要か、そしてどのような方法で看護を行えばいいかを考えて、主体的な看護を実践していく。 そのためには自分で考え、判断し、行動できる力を身につけていくことが必要である。 これらの力は日々の学習の取り組み、日常生活において意識して行っていくことで身についていく。さらに、根拠のある主体的な看護実践ができるためには、“どのようにすれば看護になるのか”を考えることができる看護師の頭（思考）が必要である。 この科目では、看護師としての思考、成長につながる振り返りの方法など、これから看護を学ぶ上で必要な知識を理解していくことから始める。そして、後期からナイチンゲールの三重の関心、看護過程の展開技術（＝看護になるための思考の筋道）を学ぶ。 《学習目標》 １　考える力を自分で成長させる方法を理解する ２　三重の関心（知的な関心、心のこもった人間的な関心、実践的・技術的な関心）を注ぐ方法を理解する
講義内容	＜前期＞ １　「考える」とはどういうことか ２　情報を見極めるとは ３　成長につながる振り返り ＜後期＞ ４　看護過程の展開技術を学ぶとは ５　看護実践のための方法論 知的な関心を注ぐ 心のこもった人間的な関心を注ぐ 実践的・技術的な関心を注ぐ
評価法	課題・レポートの内容による総合評価とする
受講生への要望	前期の授業は、その他の授業、実習、学習において活用していくことが重要です。どうしたらいいのかわからなくなったら、この授業で学んだ、知ったことを見返せるように、授業に取り組んでください。 後期の授業は、実習とも連動します。この授業では看護を実践するための思考を助ける道具（看護過程展開用紙）を使います。この道具を使いこなすには最初は難しい面もありますが、授業や実習で繰り返し使うことにより、少しずつ自分のものになっていきます。諦めずに取り組んでください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）科学的看護論／薄井　坦子／日本看護協会出版会 2）ナースが視る人体／薄井　坦子／講談社 3）ナースが視る病気／薄井　坦子／講談社 4）病気の地図帳／山口　和克／講談社 5）健康の地図帳／大久保　昭行／講談社 6）からだの地図帳／佐藤　達夫／講談社 7）看護の方法Ⅰで配布する基礎看護技術の冊子 （後期の看護過程の展開技術にて使用する）
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目 （5）

科目	看護の方法Ⅲ	単位	1	時間数	20	開講期	1年前期	担当者	看護師：矢野　玲枝 看護師：中村　泉

講義の概要および学習目標	人は環境から様々な影響を受けて生活しており、健康を維持・回復させるためには環境を整えることが不可欠である。人は、自分の家では自由に過ごすことができるが、病院や施設では治療や療養のため様々な制約があるなかで生活をすることとなる。これらの制約のなかでも快適でより日常生活に近い環境が保てるように整えることが看護には求められる。また、疾患からの回復がより促進するように「安全で快適な療養環境」を整えることも重要である。さらに、快適な療養環境は、その人の認識によっても変わることから、各々が感じる「快適な環境」には個人差が生じるものでもある。そこで、本科目では、五感を使い考えながら環境調整と感染予防について学んでいく。「安全で快適な療養環境」とは、①危険がなく安心できること②汚染物質から守られ衛生的であること③その人にとって苦痛がなく過ごしやすいことである。すべての対象にとってできるだけ「安全かつ快適な環境」をつくれるよう、さまざまな技術の習得を目指す。 《学習目標》 1　健康にとって生活環境を整えることの意義を理解し、対象の健康回復に向けて安全で快適な環境に整えられるよう環境調整の技術を整えることができる 2　安全な医療を提供できるための基本となる感染予防の知識・技術を身につける
講義内容	1　生活環境とは 2　病床環境整備①　快適な療養環境の整備　（環境整備）〔演習〕 3　病床環境整備②　快適な療養環境の整備　ベッドメイキング〔演習〕 4　病床環境整備③　就寝患者のリネン交換〔演習〕 5　感染予防の意義と原則 6　標準予防策　スタンダード・プリコーションに基づく手洗い〔演習〕 7　感染経路別予防策　必要な防護用具の選択・着脱〔演習〕 8　医療器材の処理　～洗浄・消毒・滅菌～ 9　事例患者の状況から居心地の良い病床環境を整える　〔統合演習〕 10　筆記試験
評価法	統合演習は、パフォーマンス課題をもとにルーブリックにて評価します その他、講義・演習・グループワークの参加態度、課題、筆記試験にて総合的に評価します
受講生への要望	まずは、自分の生活の中での「環境」を考えてみてください。そのなかで、療養環境は、どのような環境となるのか、状況をみた自身の「気づき」を大切にしてください。そして、どのように整えたら対象にとって安心できる「快適な環境」となるのかを考えてください。 感染予防の技術習得においては、原理原則を踏まえながら技術方法の根拠を理解することが必要になります。ただ記憶するのではなく、意味を理解しながら技術を身につけてほしいです。 臨床の場で環境に目が向き、自分で常に考えて行動できるようになることを期待します。
テキスト	書名／著書名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野　「基礎看護技術Ⅱ」／有田　清子　他／医学書院
参考文献	書名／著書名／発行所 1）ナースが視る人体／薄井　坦子／ 講談社 2）ナースが視る病気／薄井　坦子／ 講談社 3）Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井　坦子　監修／現代社 4）写真でわかる臨床看護技術　①／本庄　恵子　他／インターメディカ

必修科目（6）

科目	看護の方法Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師：杉山　加苗 看護師：脇田由紀子

講義の概要および学習目標	運動をすることと休息をとることは明確に分けることができない。休息をとりながらも身体は動きを完全に止めることなく、細胞や各器官は運動している。そして、その量が増せば休息が多く必要となる。人間は、”運動をすることで身体や精神面の維持を図り、次なる運動に向けて状態を整えるために休息をとる”ということを繰り返し、健康を維持しようとする。本科目は、その身体の働きを理解し、運動と休息のバランスをととのえるための援助方法について学ぶ科目である。また、講義を受けることで、運動と休息に対する理解を深め、自分自身がより健康に生きていくために、心身を意識的に動かしたり休めたりして自己管理ができるようになることもめざしている。 《学習目標》 1　健康にとっての運動と休息の意義について理解する 2　看護する立場から、運動・休息をどのようにみつめていくのか理解する 3　運動と休息のバランスを整えるための基本的看護技術を身につける
講義内容	1　運動と休息のバランスを整えるとは 2　健康にとっての運動の必要条件（運動の効果・生理的変化） 3　健康にとっての休息の必要条件（休息時の身体的変化・効果） 4　良い姿勢と体位・関節可動域・廃用症候群 5　人間の自然な動き・ボディメカニクス〔演習〕 6　体位変換・ポジショニング〔演習〕 7　車椅子・ストレッチャーの移乗・移送方法〔演習〕 8　ストレスとリラクセーション〔演習〕 9　手浴・ハンドマッサージ〔演習〕 10　足浴〔演習〕 11　運動と休息のバランスを整えるための援助・事例を通して　グループワーク　〔演習〕 12　筆記試験
評価法	授業・演習参加姿勢　グループワーク及び個人課題　筆記試験・レポート
受講生への要望	授業では、原理・原則を講義します。技術が身につく段階に達するためには、自己学習、繰り返しの練習が必要です。技術演習では、患者体験をもとにより良い看護について考えていきます。積極的に意見交換を行い、互いに学びあう姿勢をもち取り組んでください。 自分の身体の手や足など全身を使って人に接する演習です。服装・髪の毛・爪などの身だしなみを整え授業に臨んでください。
テキスト	書名／著書名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」／有田　清子　他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「臨床看護総論」／香春　知永／医学書院 3）ナースが視る人体／薄井　坦子／講談社 4）ナースが視る病気／薄井　坦子／講談社 5）健康の地図帳／大久保　昭行／講談社
参考文献	書名／著書名／発行所 1）ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術／紙屋　克子 ／株ナーシングサイエンスアカデミー 2）Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井　坦子　監修／現代社

必修科目（7）

科目	看護の方法Ⅴ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	看護師：山口　一世 看護師：中村　泉

講義の概要および学習目標	人間の皮膚は外界の刺激から身体を保護すると共に、不要物を排泄する器官としての大切な役割を担う。そのため皮膚の機能を維持し、身体を清潔に保つことは人の健康にとって不可欠である。また、清潔が保たれることで人としての尊厳が保たれ、社会関係を保ち、社会の中で生活することができる。 この科目では、人が清潔を維持し衣服をまとう意義を理解し、倫理的配慮に基づき安全安楽に清潔、衣生活を整えるための基礎的技術を学ぶ。 《学習目標》 1　健康にとっての身体の清潔、衣生活の意義、健康障害をもつ人に対する身体の清潔の保持、衣生活への援助の必要性を理解する 2　自分で身体の清潔保持ができない対象に安全・安楽な清潔援助を行うための知識と技術を習得する 3　患者体験を通して、清潔援助を行う上での対象への配慮がわかる
講義内容	1　清潔、衣生活の必要条件 2　洗髪、整容の基礎知識 3　整容［演習］ 4　健康の回復を促進する清潔ケア［演習］ 5　安心して受けられる清潔ケア［演習］ 6・7　看護師が行う清潔ケアの意義〔演習〕 8・9　洗髪［演習］ 10・11　陰部洗浄［演習］ 12　統合演習①［演習］ 13・14　統合演習②［演習］ 15　終了試験
評価法	出席状況、授業、演習への参加姿勢、筆記試験により評価する
受講生への要望	清潔・衣生活の看護技術は実習でも多く経験する技術です。また、羞恥心や個別性への配慮が求められる技術です。真摯に取り組み、「気持ちいい」「さっぱりした」と思っていただける技術に向けて練習を積み重ねてください。
テキスト	書名／著書名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／有田　清子　他／医学書院
参考文献	書名／著書名／発行所 1）ナースが視る人体／薄井　担子／講談社 2）ナースが視る病気／薄井　担子／講談社 3）写真でわかる臨床看護技術　①／本庄　恵子　他／インターメディカ 4）Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井　坦子　監修／現代社 5）看護がみえるVol.1　基礎看護技術／メディックメディア

必修科目（8）

科目	看護の方法Ⅵ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	看護師：河内　友子 看護師：杉山　加苗

講義の概要および学習目標	この科目は、健康にとっての「食」と「排泄」の概念をおさえ、食と排泄のバランスを整えていくために必要な基礎的な看護技術を習得する科目である。健康にとっての食と排泄の必要条件を理解し、その条件を満たすためのケアの必要性を判断する力、食と排泄のバランスを整えるための方法を知り、援助技術を学ぶ。 《学習目標》 1　健康にとって食と排泄を整えることの意義を理解し、病床における食と排泄環境を整える必要性を理解する 2　食と排泄が障害された時の看護援助を安全に行うための知識と技術を習得する 3　食事介助、排泄援助を受ける対象の思いを自ら体験することで、援助技術を行う際の配慮がわかる
講義内容	1 「食と排泄のバランスをととのえる」とは・ 健康にとっての「食」の必要条件 2　摂食嚥下障害とは・栄養状態の把握 3・4　食事介助〔演習〕 5　事例から食事介助の方法を考える〔演習〕 6　経管栄養〔演習〕 7　健康にとっての「排泄」の必要条件 8　排便障害排泄用具を用いた排泄行動の援助〔演習〕 9　健康障害時の援助① 排尿障害 10 健康障害時の援助②排便障害 11・12　排便障害時の援助「浣腸」 13　事例から排泄介助の方法を考える①〔統合演習〕 14　事例から排泄介助の方法を考える②〔統合演習〕 15　筆記試験
評価法	出席状況、講義・演習・グループワークの参加態度、レポート、課題、筆記試験を総合的に評価します。
受講生への要望	「食」と「排泄」は生命活動を維持するうえで重要なものであり、本来自立し、習慣化されています。それだけに「食」と「排泄」の援助を受けるということは、自尊心の低下や羞恥心をともなうことがあります。 この科目では患者体験で感じたことを活かしながら、人への配慮を忘れずに、技術習得に向けて励んでください。演習前後で自己課題やグループワーク課題がでます。いずれも、よりよい援助をするために必要なものです。みなさんが主体的に取り組むことを期待しています。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」／藤崎　郁／医学書院 2)ナースが視る人体／薄井　坦子／講談社 3)ナースが視る病気／薄井　坦子／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1)Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井　坦子　監修／現代社 2)看護がみえるvol.1　基礎看護技術／メディックメディア 3)看護がみえるvol.2　基礎看護技術／メディックメディア

必修科目(9)

科目	看護の方法Ⅶ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	看護師:脇田　由紀子 看護師:松永　しのぶ 看護師:松本　理恵

講義の概要および学習目標	看護者は患者にとって必要な診療が安全かつ効果的に行われるための基本技術を実施すると共に、その患者の生活をととのえることが必要である。そのためには、「診療の過程の補助に関すること」と同時に「日常生活への援助」を統合させ、診療を受ける人を支える看護の視点を持たなければならない。この科目では、診療を受ける人を支える看護の視点と医療者としての倫理観に基づいた安全かつ正確な基本技術を学ぶ。 《学習目標》 １　診療の補助における看護の視点を理解する ２　患者が安全、かつ的確な診療を受けるための基本的な知識・技術を身につける
講義内容	１　診療時の看護と責任〔演習〕 ２　包帯法・テープ固定〔演習〕 ３　酸素吸入療法〔演習〕 ４　与薬と看護　薬剤についての知識と取り扱い、与薬法 ５　注射法　注射について・注射と安全・注射器具の取り扱い・薬剤の吸い上げ〔演習〕 皮下注射・筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射〔演習〕 ６　検査と看護　検査の意義・検査時の看護 ７　血液検査　採血法〔演習〕 ８　滅菌物の取り扱い、滅菌手袋〔演習〕 ９　一時的導尿〔演習〕 10 筆記試験
評価法	出席状況、事前課題の成果、授業・演習への参加態度、筆記試験を総合評価とする
受講生への要望	本科目では、命を守り、健康を回復するという目標に向かって、医師と連携をとりながら行う看護の方法と技術を学びます。演習では自らが患者役となり体験する中で、患者の心理について考え、そこからさらに看護専門職者としての役割について考えてください。患者にとって安全・安楽な技術を提供するために、多くの知識・技術を統合することが必要です。感染予防、創傷、排泄、薬物療法などに関する基礎的な知識や看護の方法Ⅰ～Ⅵ、看護基礎力アップ演習で学んだ知識と、本科目で学ぶ知識や技術をつなげながら活用できるようにしていきましょう。
テキスト	書名／著者名／出版社 1)系統看護学講座　専門分野「基礎看護技術Ⅰ」／藤崎　郁　他／医学書院 2)系統看護学講座　専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／有田　清子　他／医学書院 3)写真でわかる臨床看護技術　①／本庄　恵子　他／インターメディカ 4)写真でわかる臨床看護技術　②／本庄　恵子　他／インターメディカ
参考文献	書名／著者名／出版社 1)Module方式による看護実習方法書＜改訂版＞／薄井　坦子　監修／現代社

必修科目（10）

科目	看護基礎力アップ演習	単位	1	時間数	15	開講期	1年後期	担当者	看護師：宮田　芳衣 看護師：矢野　玲枝

講義の概要および学習目標	この科目は、設定した事例患者に対して、看護の方法Ⅰ～Ⅵで学習してきた看護の専門的知識を活用し、対象をイメージし、対象にどうなってほしいのか、どうなることが回復にすすむことになるのか（目的）を考える。原理原則に基づいた基本技術を実施し、患者の反応から振り返り（評価）、改善することを繰り返すことで、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ。 また、実施と振り返りを繰り返す中で、自己の看護技術の課題を見出し、技術力を磨いていくこともこの科目の目的である。 《学習目標》 １　原理原則に基づいた生活援助技術を実施し、対象にとって安全、安楽、自立につながる基本技術の複合や応用を学ぶ ２　より良い援助にするために患者の反応から援助・技術の振り返りができる ３　繰り返し看護技術を練習することで、看護技術の習得レベルを向上させる
講義内容	１　事例患者に必要な観察を考え、実施する。発熱時の看護援助を考える ２　事例患者に必要な日常生活援助を患者の状況に合わせて安全・安楽に実施する ３　事例患者の苦痛の緩和・安楽への援助を考え、実施する 事例患者の看護援助について2年生に相談し、より良い援助方法を考える
評価法	振り返りシート ルーブリック ピア評価（他者評価）
受講生への要望	患者役は事例患者の動きや思いなどイメージしながら行ってください。患者役として気になったこと、不快や苦痛だったことなどは積極的に表現しましょう。そうすることで患者理解が深まり、援助の方法や技術をよりよいものにすることができます。練習をするなかで生まれた気づきや疑問もそのままにせず表現し、グループで話し合い援助を発展させてください。そして、演習を通して、うまくいかない、失敗することをたくさん経験してください。その体験を振り返ることで、学べることがたくさんあります。学びを積み重ね、自分の看護技術力を向上させていってください。
テキスト	書名／著書名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野「基礎看護技術Ⅰ」／藤崎　郁　他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野「基礎看護技術Ⅱ」／有田　清子　他／医学書院 対象理解に必要な教科書
参考文献	書名／著書名／発行所

必修科目（11）

科目	看護理論	単位	1	時間数	15	開講期	2年後期	担当者	看護師：瀧　　泉

講義の概要及び学習目標	看護実践の場面では様々な事象に出会う。どう看護することがその人にとって最善か迷ったり、自分の実践は看護になっていたのかと悩むこともある。そんな時、看護の先輩である理論家たちはどのように考えてきたのだろうと、理論を紐解くことで、解決の糸口が見つかるかもしれない。この科目では、文献検索、文献研究の方法を体験しながら、ニード、相互関係、人間関係などを中心概念とした代表的な看護理論を理解する。理論家がどのように看護学を発展させてきたのか、生きた時代や社会背景をふまえ主要な概念と定義について理解を深める。 《学習目標》 １　看護の概念や看護の本質、看護の定義はどのようにしてつくられてきたのかを知る ２　主な理論家の理論概要と特徴について説明できる ３　看護理論の看護実践への活用方法について考えることができる
講義内容	１　看護理論を学ぶ意味 ２　看護の歴史・看護学の発展と看護理論 ３　看護理論の理解 ４　看護における文献検索・文献講読 ５　看護実践の共有　―自己の看護実践の紹介と事実の掘り起こし―
評価法	提出課題、演習への取り組み状況による総合評価
受講生への要望	看護理論の理解では、グループを編成し、個人思考・集団思考・プレゼンテーションを行います。一見、難解に思えるかもしれませんが、看護の先輩である理論家と対話するように関心をもって、グループワークに取り組んでください。 最後に取り組む看護実践の共有は、3年次の「看護研究」の科目につながる内容です。「私の看護実践を聴いてもらいたい、知ってもらいたい」「あなたの看護実践を聴かせてほしい」お互いそんな姿勢で取り組み、より良い看護実践追究のヒント探しをしましょう。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）看護理論 ／筒井　真優美　編集／南江堂 2）系統看護学講座　専門分野 「看護学概論」／茂野　香おる　他／医学書院 3）系統看護学講座　別巻 「看護研究」／坂下　玲子　他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所

必修科目（12）

科目	地域と暮らしを知る演習Ⅰ	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	看護師：松永 貴子

講義の概要および学習目標	地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々とその家族を理解し、地域におけるさまざまな場で、人々の健康と暮らしを支えるための看護を学ぶ。そのためには、健康を支援するための生活の基盤である「地域」や「暮らし」を理解する必要がある。静岡市の高齢化率は全国をみても高い水準にある。そこで、「生涯活躍のまち静岡（CCRC）推進事業」の一環として駿河共生地区をモデル地域として整備を図り地域で暮らし続けることを支援する事業を始めた。本校は、この地区に位置している。そのため、学校周辺を学生達がフィールドワークすることで、地域特性を理解し、そこに住む人々とのかかわりを通して、暮らしについて理解を深めていく。そこから、「地域」と「暮らし」、「健康」のつながりについて考える。 《学習目標》 １ フィールドワークを通して、地域特性と人々の暮らしを知る ２ 地域と暮らし、健康はどのようにかかわっているのか考える
講義内容	１ 地域・在宅看護論とは なぜ、地域と暮らしを知るのか ２ フィールドワーク①② 駿河共生地区及び駿河区の探検 ３ グループワーク ４ 学びの共有 テーマ「地域と暮らし、健康はどのようにかかわっているのか？」 ＜夏季休暇の課題＞ テーマ 「わたしの暮らす地域を紹介します」 ＜最終レポート＞ テーマ 「地域の健康な暮らしを支えるために自分が取り組むこと」
評価法	出席状況、演習への取り組み、レポート課題を総合して評価します
受講生への要望	今まで生きてきた環境や出会ってきた人との中で形成された自分の価値観にとらわれず多様な暮らしや価値観に触れていきましょう。地域で暮らす人々と積極的にかかわってください。そこで感じ考えたことを大事にして表現していきましょう。 フィールドワークは、学生主体の活動です。グループの中で、自分の力を発揮できるよう取り組んでください。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の基盤」／河原加代子他／医学書院 2）系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の実践」／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア／臺有桂他／ナーシング・グラフィカ 2）地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術／ナーシンググラフィカ 3）写真でわかる訪問看護／押川眞喜子／メディカ出版

必修科目（13）

科目	地域と暮らしを知る演習Ⅱ	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	看護師：倉持有希子

講義の概要および学習目標	現在の日本では、少子・高齢化の進展に伴い、地域で最期までその人らしく生きていくことを支えていく地域包括ケアシステムが構築されている。そのシステムを推進するためには、看護の力が大きく期待されている。 本科目では、静岡市の地域特性をとらえながら地域包括ケアシステムの構成要素である自助・互助・共助・公助の実際を学ぶ。また、自然災害が予測される静岡の防災や健康づくりのための保健福祉センターでの活動についても学んでいく。演習では、静岡市のあらゆる場でフィールドワークを行う。そこから、どのように人々の健康な暮らし、望む暮らしが支えられているのか知り、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を明らかにしていく。 人々が、住み慣れた地域で望む暮らしを続けていくためには、多様な人々の切れ目のない支援が必要となる。そのため、多職種と連携・協働するための基礎的能力を養うために、理学療法学科の学生と出会い、連携ワークを行うことでお互いの職種を理解していく。 《学習目標》 １ フィールドワークすることから、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について考える ２ 人々が健康で、かつ望む暮らしをすることを支える多職種連携について考える
講義内容	１ 演習のオリエンテーション、地域包括ケアシステム（自助・互助・共助・公助） ２ 静岡型地域包括ケアシステムの理解・地域包括支援センターの役割（出前講座） ３ 静岡市の地域防災（出前講座） ４ 静岡市の保健福祉活動 ５・６ フィールドワーク（静岡市の施設や活動の場を訪問し見学や活動に参加する） ７ グループワーク ８・９ 報告会 テーマ：「地域包括ケアシステムにおける看護師の役割」 10 多職種連携ワークⅠ
評価法	出席状況、演習への取り組み、フィールドワークの成果、レポートを総合して評価します
受講生への要望	フィールドワークで感じたことや学んだことを、制度やシステムとも結びつけて理解をしていきましょう。また、発達段階や地域特性などの視点で、その人の健康や望む暮らしを支えていることについて考えていきましょう。皆さんも、地域の一員です。地域の暮らしや支援の実際に興味関心をもって学んでいきましょう。 フィールドワークや多職種連携ワークではさまざまな人々とかかわります。看護学生として望ましい姿勢・態度で臨んでください。報告会やワークには積極的に参加していきましょう。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の基盤」／河原加代子他／医学書院 2）系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の実践」／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア／臺有桂他／ナーシング・グラフィカ 2）地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術／ナーシンググラフィカ 3）写真でわかる訪問看護／押川眞喜子／メディカ出版

必修科目（14）

科目	家族の理解と看護	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	看護師：倉持有希子 家族支援専門看護師 訪問看護師　他1名

講義の概要および学習目標	家族のあり方は、時代や文化によって変化し多様性がある。現代では、核家族化や高齢者のみの世帯、一人世帯などが増加し、家族のかたちも、複雑かつ多様性を増している。人のもつ家族へのイメージは、自らが生きてきた家族の背景から作られる。そのため、様々な家族に出会う看護の場では、自分の中にある家族のイメージにとらわれることなく、柔軟な思考や広い視点にたって家族を捉えていくことが求められる。 家族成員の健康障害は、家族全体に影響を及ぼす。そのため、家族本来のもつ力に注目し、家族全体の機能が発揮されることで健康を維持していくための看護を学んでいく。 《学習目標》 １　多様な家族のあり方を知ることから、看護の対象となる家族を理解する ２　家族のもてる力が発揮され、家族全体が健康を維持していくための看護を考える
講義内容	１　家族を看護するとは ２　家族看護の実際 １）子育ての家族看護 ２）障がい児（者）の家族看護 ３）若者の家族看護 ４）成人の家族看護 ５）高齢者の家族看護 ３　演習　テーマ「家族全体が健康を維持していくための看護」
評価法	授業への参加態度、出席状況、授業前後のレポート、演習の成果を総合して評価します
受講生への要望	自己のもつ家族のイメージは、みなさんが生きてきた家族との関係からつくられています。関連する科目の学習や自己学習により、多様な家族のあり方や価値観を学び、自己の家族観を深めながら家族への看護を考えてください。家族のあり方は、多種多様です。個の家族観は、個人の体験に影響されます。お互いを尊重し、プライバシーを守り、倫理観をもって学んでください。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）系統看護学講座　別巻 「家族看護学」／上別府圭子他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「地域・在宅看護の基盤」／河原加代子他／医学書院 3）系統看護学講座　専門分野 「地域・在宅看護の実践」／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）家族看護学　理論と実践　第4版／鈴木和子、渡辺裕子／日本看護協会出版会 2）家族看護学臨床場面と事例から考える／ 山崎あけみ、原　礼子／南江堂

必修科目（15）

科目	地域・在宅看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師：倉持有希子 看護師：松永しのぶ 入退院支援看護師

講義の概要および学習目標	地域包括ケアシステムをますます推進していくためには、地域・在宅看護の力が大きく期待されている。特に在宅看護では、在宅で療養生活をおくる人々とその人々を支えている家族に対して、QOLを維持・向上させることを目的とした看護活動が行われる。ゆえに、対象の多様な価値観や信条、今までの生活のあり方など丸ごと尊重したかかわりが必要となる。 この科目は、訪問看護に焦点をあて、看護過程の特徴と在宅生活を尊重した日常生活援助技術を習得していく。また、病院と地域・在宅をつなぐ入退院支援の実際についても学ぶ。さらに、切れ目のない支援を行うための多職種連携・協働についても多職種の学生と共にワークすることで理解を深めていく。 ≪学習目標≫ １　在宅療養生活を支える訪問看護を理解する ２　地域・在宅看護にかかわる制度～介護保険～とその活用を理解する ３　地域・在宅看護の看護過程の特徴を理解する ４　暮らしを支える生活援助技術を習得する ５　多職種と連携・協働するために必要なことを考える
講義内容	１　地域・在宅療養生活を支える訪問看護・介護保険の活用 ２　地域・在宅看護の対象理解・看護過程の特徴 ３　演習：暮らしを支える日常生活援助技術 排泄・与薬・清潔援助 ４　退院支援・退院調整の実際 ５　3年次生「地域・在宅看護の探究発表会」参加 ６　多職種連携ワークⅡ
評価法	出席状況、授業への取り組み、演習の成果、筆記試験を総合して評価する
受講生への要望	訪問看護は、対象の生活する場で行われる。そのため、日々療養者や家族が生活しているという意識をもってイメージしながら学んでほしい。また、日常生活援助技術は既習の知識を活用し、在宅での生活を考えながら具体的な方法について習得してほしい。 3年次生の「地域・在宅看護の探究発表会」に参加することで、地域・在宅看護にとって必要な視点についての学びを深めてほしい。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野 「地域・在宅看護の基盤」／河原加代子他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「地域・在宅看護の実践」／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア／臺有桂他／ナーシング・グラフィカ 2）地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術／ナーシンググラフィカ 3）写真でわかる訪問看護／押川眞喜子／メディカ出版

必修科目（16）

科目	地域・在宅看護の展開Ⅱ	単位	2	時間数	40	開講期	3年前期	担当者	看護師：松永しのぶ 訪問看護師　在宅医 臨床看護師

講義の概要および学習目標	地域・在宅での療養生活を支えていくために、さまざまなサービスの活用や多職種の協働がなされている。その中で、看護は、医療的ケアや処置を必要とする人や人生の最終段階にある人へのケア、家族への支援、チームのコーディネーターとしての役割など専門性を発揮している。 この科目では、「地域・在宅看護の展開Ⅰ」での学びをもとに訪問看護に焦点をあて、さらに看護の専門性を発揮できるよう看護を学んでいく。 ≪学習目標≫ １　医療的ケアや処置を必要とする療養者と家族の看護を理解する ２　人生の最終段階にある人と家族への看護を考える ３　ケアマネジメントの実際を知る ４　多職種とケースを検討することで専門職の連携について考える
講義内容	１　医療的ケアや処置を必要とする対象の理解 ２　演習：在宅で療養している難病の療養者と家族を支える看護 ３　医療管理・医療処置を必要とする療養者と家族への看護の実際 ４　在宅で人生の最終段階を迎える療養者と家族の看護 ５　看護の継続性＜外来看護＞ ６　地域医療の実際 ７　ケアマネジメントの実際 ８　多職種連携ワークⅢ＜ケースカンファレンス＞
評価法	出席状況、授業への取り組み、演習の成果、筆記試験を総合して評価する
受講生への要望	本講義は、「地域・在宅看護論実習Ⅱ」の前に展開する。そのため、臨地実習で活用できるよう演習を行ったり、特定行為を行っている訪問看護師などの実際に触れる。そのため、訪問看護を行っている自分をイメージしながら望んでほしい。 多職種連携ワークⅢは、他職種の学生とケースカンファレンスを行う。最後のワークになるため、相手へのリスペクトをもって、より主体的な参加を期待する。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤　第6版／河原加代子他／医学書院 2）地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践　第6版／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア／臺有桂他／ナーシング・グラフィカ 2）地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術／ナーシンググラフィカ 3）写真でわかる訪問看護／押川眞喜子／メディカ出版

必修科目（17）

科目	地域・在宅看護の探究	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	看護師：倉持有希子 看護師：松永貴子

講義の概要および学習目標	地域・在宅看護は、その人や家族が住み慣れた地域や在宅で、健康で、望む暮らしを支えることを　　目的とする。その対象の発達段階や健康の段階は様々で、時には、人生の最終段階を迎えている人もいる。地域・在宅で多様な人々を支えていくためには、様々な社会的問題や個別の課題と向き合うことが必要となる。 この科目では、学生自身が関心をもって探究したい問題や課題をテーマにあげ、これまでの学びや自己学習、グループ学習を活かして、その看護を明らかにしていく。 《学習目標》 地域・在宅療養生活を継続していくための問題や課題をに焦点をあて、その看護を明らかにする
講義内容	＜事前＞ 「地域・在宅看護論実習Ⅱ」に向けて、地域・在宅看護で探究したいテーマを設定する 1　探求したいテーマの明確化 2　個人ワーク　＜作品①＞ 3　グループで共有 4　個人ワーク　＜作品②＞ 5　グループで共有 6　学びの発表会 ＊2年次生参加「地域・在宅看護の展開Ⅰ」
評価法	個人ワーク・共有会・発表会への参加態度、成果物を総合して評価します。
受講生への要望	この科目は、地域・在宅看護論の最終科目です。1年次の演習、2・3年次の看護展開の授業、臨地実習の体験を想起しながら、目的意識をもって取り組んでください。看護を探究していくために、自己の体験だけではなく、仲間の体験や文献なども大いに活用し、広い視野でまとめていきましょう。
テキスト	書名／ 著者名／発行所 1）地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤 第6版／河原加代子他／医学書院 2）地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践 第6版／河原加代子他／医学書院
参考文献	書名／ 著者名／発行所 1）家族看護学／上別府圭子／医学書院 2）社会保障・社会福祉／福田素生／医学書院

必修科目（18）

科目	成人看護学 成人看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	看護師：瀧　　泉

講義の概要および学習目標	人間の一生の中で成人期は最も長い時期である。この科目では、まず成人期とはどのような時期なのか、発達段階の特徴を理解する。そして、健康を資源によりよく生きるためには、成人期をどう過ごせばよいのか考える。わが国の保健問題の動向と対策を概観し、成人期を生きる人々の多様な健康状態や健康問題に対応するための基本的な考え方や方法を学ぶ。 《学習目標》 １　成人期から老年期へと続く変化の過程を“人間の発達の過程”と捉え、成人各期の特徴を説明できる ２　成人期にみられる健康問題を、生活に焦点をあて理解する ３　成人期を生きる人が健康な生活を作り出すための、看護者の役割、看護アプローチの基本を学ぶ
講義内容	１　人間のライフサイクルにおける成人期、発達課題と発達危機 ２　青年期・成人前期の特徴と保健問題 ３　壮年期・中年期・向老期の特徴と発達課題 ４　成人を取り巻く環境と生活から見た健康　　生活習慣病・職業性疾病 ５　成人の生活と健康をまもりはぐくむシステム ６　ストレスと健康生活　ストレスマネジメント ７　成人学習者の特徴と健康教育・患者教育　効果的なアプローチ
評価法	筆記試験 提出課題 出席状況
受講生への要望	社会の期待に応える看護職になるためには、社会の動向やニーズを知る必要がある。授業の内容がより身近なものとして理解できるよう、人の健康や成人に関する保健問題社会制度に関するニュースに、普段から興味をもってほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野 「成人看護学総論」／小松 浩子　他／医学書院 2）国民衛生の動向（2025/2026）／厚生統計協会 3）生涯人間発達論　第3版／服部 祥子／医学書院
参考文献	授業の中で紹介していきます

専門分野　成人看護学　**成人看護の展開**　使用テキスト・参考文献

※「看護の展開セット」の内容は、次頁を参照してください。

科目	担当者	テキスト ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所	参考文献 ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所
成人看護の展開 Ⅰ	松永　貴子 松本　理恵	1） 系統看護学講座　専門分野 「呼吸器」　医学書院 2） 系統看護学講座　専門分野 「循環器」　医学書院 3） 系統看護学講座　別巻 「がん看護学」　医学書院 4） 系統看護学講座　別巻 「クリティカルケア看護学」　医学書院 5） 系統看護学講座　別巻 「臨床放射線医学」　医学書院	1） 看護の展開セット 2） 看護の生理学 （3） 人間をみる看護の視点
	放射線医師	1） 系統看護学講座　別巻 「臨床放射線医学」　医学書院	
	臨床工学技士	1）「写真でわかる臨床看護技術①」 本庄恵子　他　　インターメディカ	1）「MEの基礎知識と安全管理」 日本生体医工学会　南江堂
成人看護の展開 Ⅱ	宮田　芳衣 河内　友子	1） 系統看護学講座　専門分野 「消化器」　医学書院 2） 系統看護学講座　別巻 「臨床外科看護総論」　医学書院 3） 系統看護学講座　別巻 「臨床外科看護各論」　医学書院	1） 看護の展開セット
	皮膚・排泄ケア 認定看護師	1） 系統看護学講座　専門分野 「消化器」　医学書院	
	静岡病院 医師	1） 系統看護学講座　別巻 「臨床外科看護総論」　医学書院 2） 系統看護学講座　別巻 「臨床外科看護各論」　医学書院	
成人看護の展開 Ⅲ	松永しのぶ 山口　一世 倉持有希子	1） 系統看護学講座　専門分野 「耳鼻咽喉」　医学書院 2） 系統看護学講座　専門分野 「運動器」　医学書院 3） 系統看護学講座　専門分野 「女性生殖器」　医学書院 4） 系統看護学講座　専門分野 「成人看護学総論」 医学書院 5） 系統看護学講座　専門分野 「臨床外科看護各論」 医学書院	1） 看護の展開セット
	皮膚・排泄ケア 認定看護師	1） 系統看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 2） 系統看護学講座　専門分野 「皮膚」　医学書院	

成人看護の展開 Ⅳ	河内　友子 中村　泉	1）　系統看護学講座　専門分野 「内分泌・代謝」　医学書院 2）　系統看護学講座　専門分野Ⅱ 「アレルギー　膠原病　感染症」　医学書院 3）　糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂 4）　系統看護学講座　専門分野 「血液・造血器」　医学書院 5）　系統看護学講座　専門分野 「皮膚」　医学書院	1）　看護の展開セット
	糖尿病 認定看護師	1）　系統看護学講座　専門分野 「内分泌・代謝」　医学書院 2）　糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂	
	がん化学療法 看護認定看護師	1）　系統看護学講座　別巻 「がん看護学」 医学書院 2）　系統看護学講座　別巻 「緩和ケア」 医学書院	
成人看護 学習支援演習	山口　一世 松本 理恵	1）　系統的看護学講座　専門分野 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 2）　系統的看護学講座　専門分野 「成人看護学総論」 医学書院	

看護の展開セット

1）「ナースが視る人体」	薄井坦子	講談社
2）「ナースが視る病気」	薄井坦子	講談社
3）「健康の地図帳」	大久保昭行	講談社
4）「からだの地図帳」	佐藤　達夫	講談社
5）「病気の地図帳」	山口　和克	講談社

必修科目（19）

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師：松永　貴子 看護師：松本　理恵 放射線科医師 臨床工学科技士

講義の概要および学習目標	成人期にあり、生命を維持する働きに障害のある患者の看護について学ぶ。 本科目では生命を維持する働きとして循環器疾患・呼吸器疾患を取り上げる。人間は生命を維持する働きが障害されると呼吸障害、循環障害を起こし、心身共に危機状態に陥る。早急に対応する必要性を理解し、耐え難い苦痛や死を連想する対象の思いを受け止めたうえで、どのように援助を行ったらよいのか考える。 循環器疾患患者の事例では、生命危機の最中にある患者の看護、危機を脱したあと疾患を抱えて生活する患者の看護について考える。成人期にある患者の特徴をふまえ悪化を繰り返すことなく過ごせるように、患者の生活や認識の調整を行い、治療を継続してQOLを維持できるための看護を学ぶ。 呼吸器疾患患者の事例では、手術療法は不可能であるが、患者自ら考え決定した意志を尊重し、治療が継続できるよう看護する方法について学ぶ。 放射線療法や精密医療機器の取扱いについて専門職者から知識・技術を学ぶ。 《学習目標》 １　成人期にあり生命を維持する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につける ２　生活や認識の調整を行い、セルフケア行動を獲得するための看護について考える ３　放射線療法について理解する ４　精密医療機器の取扱いが習得できる
講義内容	１　生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・　心筋梗塞患者の看護（事例展開） 【演習】モニタリング（S-Gカテーテル、中心静脈圧、12誘導心電図）、BLS 循環器系のフィジカルアセスメント ２　生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・　肺がん患者の看護（事例展開） 【演習 】呼吸器系のフィジカルアセスメント ３　放射線療法の実際 ４　不整脈のある患者の看護 ５　生命を維持するために必要な医療機器の取扱い 【演習】輸液ポンプ、シリンジポンプ等の取扱い
評価法	出席状況、提出物、小テスト、筆記試験を総合して評価します。
受講生への要望	受講に際しては、事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。 主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目（20）

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師：宮田　芳衣 看護師：河内　友子 皮膚・排泄ケア認定看護師 外科医師

講義の概要および学習目標	人間は、自然界から存在に不可欠な物質を体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。外界から摂取した栄養物は、咀嚼され消化酵素の働きで細かく分解されて、消化管壁から血中に吸収され、人間に必要な物質に作り替えられ、不要になったものは便として排泄される。 ここでは、癌細胞の増殖により食物を消化する機能に障害のある患者、不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護の原則、手術療法をうける患者の手術前・手術中・手術後の看護の原則、粘膜細胞のつくりかえが阻害され栄養を吸収する働きに障害のある患者の看護の原則について学習する。 また、新しい排泄経路を管理しながら、自宅療養をする患者の看護について、皮膚・排泄ケア認定看護師より、専門的な知識と技術を学ぶ。 《学習目標》 １　食物を消化・吸収・排泄する働きに障害をもつ対象を理解し、状況に応じた看護が出来るための基礎的能力を身につける ２　排泄経路を変更し、自宅療養をする患者の看護について、専門的な知識と技術を学ぶ ３　外科的治療（手術療法）を受ける患者の周術期全過程に対する看護について学ぶ
講義内容	１　癌細胞の増殖により食物を消化する働きに障害のある患者の看護 ・　胃癌患者の事例展開 【演習】 内視鏡検査時の看護　術後ドレナージ法　腹部のフィジカルアセスメント 術後の観察 ２　癌細胞の増殖により不要物を排泄する経路に障害のある患者の看護 ・　直腸癌患者の事例展開 【演習】 ストーマケア ３　粘膜細胞のつくりかえに障害があり、栄養を吸収する働きに障害のある患者の看護 ・　クローン病患者の看護 ４　手術療法を受ける患者の看護
評価法	課題 筆記試験 レポート
受講生への要望	受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。 主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目（21）

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師: 松永しのぶ 看護師:山口　一世 看護師:倉持有希子 皮膚・排泄ケア認定看護師

講義の概要および学習目標	この科目では、感覚器、運動器、性生殖器の健康障害を持つ患者の看護について事例を通して学習する。青年期や壮年期にある人が社会生活を送りながら健康障害と向き合うとはどういうことかを考え、生涯にわたり継続した生活調整を必要とする患者の看護について学ぶ。疾患により今までの生活がどのように変化するのか、その生活に合わせて生活調整を援助するための看護を考えていく。 《学習目標》 1　外界と個の不適応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を 身につける 2　生活を作り出す働きに障害がある対象の理解と、身体機能障害の程度に応じた看護実践ができるよう知識を基に生活を維持するための看護について学ぶ 3　生命の連続性を維持する働きに障害がある対象について理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける 4　行動範囲を拡大する働きに障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける
講義内容	1　外界と個の不適応現象による障害のある人の看護 ・　メニエール病患者の看護 2　生活を作り出す働きに障害がある人の看護 ・　関節リウマチ患者の事例展開 3　生命の連続性を維持する働きに障害がある人の看護 ・　乳がん患者の事例展開 ・　乳がん患者の生活指導 【演習 】乳房触診、自己検診、リンパ郭清後のケア・リハビリ 4　行動範囲を拡大する働きに障害のある人の看護 ・　脊髄損傷患者の事例展開 ・　自力体動が困難な患者への看護 【演習 】褥瘡予防のケア(体位交換、ポジショニング） 膀胱留置カテーテル管理 5　創傷ケア・治癒促進・褥瘡ケアの看護の実際
評価法	筆記試験 課題提出状況 出席状況
受講生への要望	受講に際して事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習が重要です。 事例展開の授業では、事例患者をイメージし、次回までの課題を進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目（22）

科目	成人看護学 成人看護の展開Ⅳ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師：河内　友子 看護師：中村　泉 糖尿病看護認定看護師 がん化学療法看護認定看護師 日本赤十字社講師

講義の概要および学習目標	血液は、運搬と排泄・体温調節・酸塩基平衡維持・体液量維持など様々な働きを持っている。そして、血液は全身を循環しているために、全身の組織や臓器に大きく影響を及ぼし、生命の維持に重要な役割を担っている。そのことを理解したうえで、血液をつくりだす働きの障害、血液の成分の乱れ、免疫機構の乱れによる障害、ホルモンによる調節機構の障害がある対象の看護を学ぶ。 この科目では病気の治癒ではなく、病気とともに生き寛解期を維持することを目標にした健康障害をもつ患者の看護について学習する。成人期である患者がセルフケアをしながら生活していくとはどういうことかを考える機会としたい。 また認定看護師による化学療法を受ける患者の看護や糖尿病患者の看護の実際、支持療法である輸血の取り扱いについて専門的な知識と技術を学ぶ。 《学習目標》 統一体を支える血液の破綻による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける。また寛解期が維持できるようなセルフケアを支える看護について専門的な知識と技術を学ぶ。
講義内容	1　代謝に障害のある患者の看護 ・　Ⅱ型糖尿病患者の事例展開 ・　糖尿病患者の看護の実際 【演習】血糖測定、インスリン注射 2　造血機能に障害のある患者の看護 ・　急性骨髄性白血病患者の事例展開 ・　化学療法を受ける人の看護 ・　輸血療法を受ける人の看護 3　ホルモンによる調節機構に障害のある患者の看護 ・　甲状腺機能亢進症患者の看護 4　免疫機構に障害のある患者の看護 ・　全身性エリテマトーデスの患者の看護 5　終了試験
評価法	出席状況と授業態度 課題の提出状況および成果 筆記試験
受講生への要望	受講に際して事前学習・事後学習、関連既習科目の学習が必要となります。 事例展開の授業では、課題を確実に進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目（23）

科目	成人看護 学習支援演習	単位	1	時間数	20	開講期	2年 後期	担当者	看護師：山口　一世 看護師：松本理恵

講義の概要および学習目標	健康が障害された状態とは、人間としての調和の乱れを自力で取り戻すことが一時的に困難になった状態であり、看護はその人がよりよく生きていくことを健康の側面から支援することである。その人がよりよく生きるためには、対象自身が調和をとることの必要性を自覚するとともに、自己管理能力を高めることが重要であり、看護職者の指導的役割は大きい。この科目では事例に対する教育計画を立て、実践することで対象の力を活かした、生活の再構築に向けた指導の方法について学ぶ。さらに、他学年との学習の経験を通して、成人学習者の特徴を知りながら、対象の主体的な学びを支援するための基本について考えていく。 《学習目標》 １　事例指導案作成を通して、看護者としての生活の再構築に向けた支援の基本的な姿勢がわかる ２　1年生への学習支援を通して自己をも振り返りながら成人学習者の理解を深め、その支援の方法を学ぶ
講義内容	１　胃切除術術後患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する ２　乳房切除術術後患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する ３　糖尿病患者への生活の再構築のための指導案を作成し実施する ４　1年生が自らの力で看護実践できるよう、1年生への指導案を作り支援する
評価法	GWの参加状況、GWの成果物など総合して評価します
受講生への要望	この科目は成人看護学概論で学んだ成人学習者の特徴をふまえ、事例の状況に合わせた指導案を考えます。更に、1年生への学習支援ではそれまでの学びを活かし、関わることで、自身の学習者としての姿勢にも気づくことを期待しています。 積極的な参加をお願いします。

必修科目（24）

科目	老年看護学 老年看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	看護師：松永しのぶ

講義の概要および学習目標	ライフサイクルにおける人間の発達段階をみると、その節目ごとに発達上の意味がある。老年看護概論は「第3の人生」（科学的看護論）を生きる人の理解と、そのステージを現代の日本で生きているという視点で”生活と健康”について考え、看護師の役割、看護のアプローチの基本を学ぶ。 《学習目標》 人間の一生の中で老年期とはどういう時期なのか、老年期の生理的・心理的特徴を理解する。老化、病、障害を合わせ持つ状況を捉え、高齢者がより良く生活していけるために生活をどのように整えていくのか考える。また、老年期を取り巻く社会状況や課題がわかり、おかれている状況から、権利擁護、倫理的課題について考える。より良い人生の終末を迎えるための意思決定や高齢者のQOLを支援するための看護の役割を学ぶ。
講義内容	1　高齢者の人生を知ろう　　ーライフヒストリーのインタビューを通して 2　高齢者の生活について考えよう　　－高齢者体験を通して 3　身近な高齢者がこれからも健康に生活していくための提案書作成 4　高齢者に起こりやすい症状を捉え、必要なかかわりを提示する 5　高齢者を取り巻く社会・権利擁護について 6　人生の最期をどう迎えるか　　ー老衰死
評価法	授業で学習した内容の確認テストを行います。 事前学習、提案書、ライフヒストリーレポート、権利擁護についてのレポート 老衰死レポート、学びのまとめ 各課題に配点があり、確認テストと合わせて100点になります。
受講生への要望	自分の身近にいる高齢者と積極的にコミュニケーションや関わりを持つ機会を作って自分の世代以外の人々の価値（好きなもの、楽しみ、嫌なことなど）に興味を持とう。 高齢者に関する保健問題、制度に関するものなど、ニュースや新聞記事に、普段の生活から興味を持ち、授業の内容を身近なものとして理解できるよう努力してほしい。 授業は体験やグループワークを多く取り入れる。他者から与えられる学びだけでなく、自分自身や仲間と共に気づき、学びを深められるような取り組みを意識してほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野　「老年看護学」／北川　公子　他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野　「老年看護 病態・疾患論」／鳥羽　研二　他／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1)「平穏死」という選択／石飛　幸三／幻冬舎ルネッサンス新書 2)「平穏死」10の条件／長尾　和宏／ブックマン社 3)生涯人間発達論／服部　祥子／医学書院 4)国民衛生の動向／厚生統計協会

専門分野　**老年看護の展開**　使用テキスト・参考文献

※「看護の展開セット」の内容は、成人看護の展開の項を参照してください。

科目	担当者	テキスト ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所	参考文献 ： 書名 ・ 著者 ・ 発行所
老年看護の展開 Ⅰ	矢野　玲枝 認知症看護 認定看護師	1）系統看護学講座　専門分野 「脳・神経」　医学書院	1）看護の展開セット 2）系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」 医学書院
	理学療法士 作業療法士	1）系統看護学講座　専門分野 「脳・神経」　医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」　医学書院 3）系統看護学講座　別巻 「リハビリテーション看護」　医学書院	
	摂食・嚥下 障害看護 認定看護師	1）系統看護学講座　専門分野 「脳・神経」　医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」　医学書院 3）系統看護学講座　別巻 「リハビリテーション看護」　医学書院 4）系統看護学講座　専門分野 「耳鼻咽喉」　医学書院	
老年看護の展開 Ⅱ	松永　貴子 山口　一世 松本　理恵 呼吸理学療法士	1）系統看護学講座　専門分野 「呼吸器」　医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「循環器」　医学書院 3）系統看護学講座　専門分野 「運動器」　医学書院 4）系統看護学講座　別巻 「クリティカルケア看護学」　医学書院 5）系統看護学講座　別巻 「リハビリテーション看護」　医学書院	1）看護の展開セット 2）系統看護学講座　専門分野 「老年看護学」　医学書院 3）系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」 医学書院
老年看護の展開 Ⅲ	山口　一世 松永しのぶ	1）系統看護学講座　専門分野 「内分泌・代謝」　医学書院 2）系統看護学講座　専門分野 「消化器」　医学書院 3）系統看護学講座　専門分野 「腎・泌尿器」　医学書院 4）系統看護学講座　専門分野 「耳鼻咽喉」　医学書院	1）看護の展開セット 2）系統看護学講座　専門分野 「老年看護　病態・疾患論」 医学書院
	透析看護 認定看護師	1）系統看護学講座　専門分野 「腎・泌尿器」　医学書院	
	緩和ケア 認定看護師	1）系統看護学講座　専門分野 「消化器」　医学書院 2）系統看護学講座　別巻 「緩和ケア」　医学書院	
	喉頭摘出 患者会 会員		1）「新しい言葉の命を得て」 池上　登　　静岡新聞社 2）「食道発声の手引き」 高藤　次夫　　銀鈴会

必修科目（25）

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	看護師：矢野　玲枝 摂食・嚥下障害看護認定看護師 認知症看護認定看護師 理学療法士・作業療法士

講義の概要および学習目標	人間が生存、生活していくうえでのあり方、感じ方や考え方などその人らしさなどをつくりあげ、神経系の働きを統括するのが脳である。脳神経疾患患者の多くは、突然発症し意識障害・呼吸障害・循環障害・機能障害などを引き起こす。急性期は生命の危機にさらされることも多い。また、生命危機を脱しても、運動・感覚・高次脳などの機能障害を残し、これまでの生活が一変することもある。そこで本科目では、人間を統合する脳の働きに障害のある対象を理解できるよう、超急性期から回復期までの看護を学んでいく。そして、回復過程に合わせた看護実践がおこなえることを目指して気づきトレーニングやリハビリテーションを含めた基礎的能力を学ぶ。 《学習目標》 人間を統合する脳の働きに障害のある対象の理解と健康障害の段階に応じた看護実践ができるよう、脳の働きと障害についての知識を基に、状態に応じた看護を学ぶ
講義内容	1　脳梗塞により人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護 ・【演習】神経系フィジカルアセスメント(意識状態に関するもの) ・事例展開 2　くも膜下出血により人間を統合する脳の働きに障害のある人の看護 ・【演習】手術前の観察　シミュレーション ・事例展開（手術後の観察を含む） ・高次脳機能障害のある患者の看護を考える 3　リハビリテーション総論 4　理学療法を受ける患者の理解 【演習】神経系フィジカルアセスメント （運動機能・感覚機能・反射・小脳機能に関するもの） 5　作業療法を受ける患者の理解 【演習】神経系フィジカルアセスメント （運動機能・感覚機能・反射・小脳機能に関するもの） 6　摂食嚥下機能訓練を受ける患者の理解および看護 7　認知症患者の理解および看護 8　終了試験
評価法	課題提出状況・課題内容 筆記試験
受講生への要望	既習科目と関連させて学習することが大切です。特に、看護のための疾病論で学んだ知識を踏まえて、人間のもつ回復力を促進することを考えて主体的に看護を考えていってほしいです。 脳の障害は目に見えてわかりやすい症状もあれば、わかりにくい症状もあります。そのため、看護者の観察による気づきが重要となります。正しい観察方法を学び、何が起きているのか、どのような症状があるのかに気づく力を養いたいと考えています。演習には主体的に参加してほしいです。 さらに、看護者として・人として、対象を尊重し、反応がある・ないにかかわらず、どのようにかかわれたらよいのかを考えながら学んでほしいです。

必修科目（26）

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師：:松永　貴子 看護師：山口　一世 看護師：松本　理恵 呼吸理学療法士

講義の概要および学習目標	呼吸は、生物体が生きていくために不可欠な酸素を自然界から体内に取り入れ、不要物を外界に排泄する役割を担っている。この酸素などの物質が運搬されるために、循環機能が正常に働き、生命を維持している。呼吸、循環の機能の不可逆的な変化による健康障害をもち、生活の調整をしながら慢性的な経過をたどる老年期の対象の状態に合わせた看護について学ぶ。 下肢は行動範囲を拡大し生活を支える。加齢に伴う機能変化と共に運動器を障害された対象の身体的・精神的・社会的問題について学習し、生活を維持するための看護を学ぶ。 《学習目標》 １　人間が生命を維持するための直接的な機能を担う呼吸・循環のしくみと障害についての知識を基に、その働きに障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ ２　老年期の発達課題と老化に伴う変化を理解しながら、行動範囲を拡大する働きを担う運動器の健康障害をもつ対象への看護ができるための基礎的な能力を身につける
講義内容	１　生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・心臓弁膜症による心不全患者の看護（事例展開） 【演習】循環器系のフィジカルアセスメント ２　生命を維持する働きに障害のある患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患患者の看護（事例展開） 【演習】吸引・吸入、排痰法、体位ドレナージ ３　呼吸・循環障害に関するリハビリテーション ４　行動範囲を拡大する働きに障害のある患者の看護 ・大腿骨頸部骨折患者の看護（事例展開） 【演習】牽引療法
評価法	出席状況、授業への参加態度、課題提出状況・筆記試験を総合評価とします。
受講生への要望	受講に際しての事前・事後学習、関連既習科目の学習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためにはここでの学習を更に深めるための自己学習が重要となります。主体的な学習姿勢を期待します。 授業の中で基礎知識に戻るとき解剖生理学や病態生理学の教科書を活用しましょう。

必修科目(27)

科目	老年看護学 老年看護の展開Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	2年後期	担当者	看護師:山口　一世 看護師:松永　しのぶ 緩和ケア・透析看護 認定看護師 喉頭摘出患者会会員

講義の概要および学習目標	すべての生物体は生きていくために不可欠な物質を自然界から体内に取り入れ、不要物を外界に排泄している。そして人間は固有の内部環境を持ち外界との間に独特な関係を結んでいる。 この科目では内部環境を整える働きが障害されたことで起こる身体的・精神的・社会的問題を加齢に伴う身体機能の変化を踏まえ、事例展開しながら学習する。 また、感覚器系に障害を持つ患者を理解するため、障害を持ちながら社会で活躍している方の体験談や闘病記を紹介している。外界と個の不適応現象による障害を持つ対象を理解し、身体障害について理解を深めるとともに、状況に応じた看護ができるための基礎的能力として、障害に対する回復への援助(自立に向けた援助)について考える。 《学習目標》 1　内部環境を維持する働きに障害を持つ対象の理解と、健康の段階に応じた看護ができるための基礎的な能力を身につける 2　老年期の発達課題と、老化に伴う変化を理解し、障害をもちながらよりよく生きることを支える看護の基礎的な能力を身につける 3　外界と個との不適応現象による障害を持つ対象を理解し、状況に応じた看護ができるための基礎的能力を身につける
講義内容	1　内部環境を維持する働きに障害のある人の看護 ・　肝硬変の患者の事例展開 【演習】腹水・浮腫のある人の観察 2　内部環境を維持する働きに障害のある患者の看護 ・　慢性腎不全患者の事例展開 ・　透析療法について 3　がん細胞の増殖により膵臓の働きが障害された人の看護 緩和ケアを中心に理解する ・　膵臓がん患者の事例展開 4　外界と個の不適応現象による障害のある人の看護 ・　感覚機能の変化と喪失(喉頭全摘術後の生活の理解を中心に) ・　当事者の体験を聴くことで喉頭癌患者の看護を考える
評価法	筆記試験 講義期間中の課題 出席状況と授業態度
受講生への要望	受講に際して事前・事後学習、関連既習内容の復習が必要とされます。 臨地実習へつなげるためには、ここでの学習を更に深めるための自己学習も重要です。 事例展開の授業では、事例患者をイメージし、課題を進めたうえで授業に参加する主体的な学習姿勢を期待します。

必修科目(28)

科目	小児看護学 小児看護概論	単位	1	時間数	20	開講期	1年 後期	担当者	看護師:矢野　玲枝

講義の概要および学習目標	小児看護の目的は、さまざまな健康レベルにある子どもたちに対する必要な援助を行うことである。 そして、子どもをとりまく家族や地域の人々とともに、子どもたちを社会の一員として育んでいくことが重要である。そのためにはまず、対象である小児を理解し、子どもがおかれている社会を理解する必要がある。そこで本科目では、小児各期の成長・発達の特徴について学び合い、成長・発達の基本をおさえることを目指している。さらに、小児各期の成長・発達に合わせた日常生活行動の獲得に向けた支援について理解を深めていく。 子どもとかかわるうえで、子どもを一人の存在として尊重することが基盤となる。すべての子どもが権利を有することを理解し、子どもにとっての最善の利益とは何かを常に考えることの必要性がわかることで、2年次以降の学習につなげていくことがねらいである。 《学習目標》 小児各期の成長・発達の特徴について学ぶ。さらに発達段階に合わせた遊びや日常生活行動の獲得に向けたかかわり方を学ぶ。また、子どもを守る法律や制度を理解し、子どもを一人の存在としてとらえ、子どもの権利条約に基づいたかかわりについて考えながら学ぶ。
講義内容	1　小児看護学への招待～小児にかかわる日本の現状と未来～ 2　新生児期・乳児期の成長・発達の特徴 3　幼児期の成長・発達の特徴 4　日常生活習慣の獲得に向けた支援 5　日常生活習慣の獲得に向けた支援まとめ・小児にかかわる理論、前半筆記試験 6　学童期・思春期の成長・発達の特徴 7　子どもの遊び 8・9　子どもの権利条約 10　子どもを守る法律と制度・後半筆記試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、 グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	本科目の多くは、事前学習として各自が担当し、調べてきた内容について資料をまとめ、小グループで発表し合う協同学習をおこなっていきます。プレゼンテーション力も養いながらグループで教え合い・学び合います。他学生にも影響するため、事前学習にはきちんと取り組み、他者に説明できるように自分が理解し学習してほしいです。本科目で作成する資料は、2年次以降に学ぶ科目や小児看護学実習、さらには国家試験勉強にも役立つため、個人が教える責任を感じながら学習してほしいです。 本科目では、小児期時代の自分を想起し、時には子どもになりきって、楽しみながら学んでほしいです。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野 「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 2)ナーシンググラフィカ　小児看護学① 「小児の発達と看護」 ／中野　綾美　他／メディカ出版
参考文献	書名／著者名／発行所 1)生涯人間発達論　第3版／服部　洋子／医学書院 2)小児看護学①小児看護学概論・小児保健／松尾　宣武　編集／メヂカルフレンド社 その他、成長・発達に関する保育書籍等授業の中で紹介します

必修科目(29)

科目	小児看護学 小児看護援助論	単位	1	時間数	15	開講期	2年 前期	担当者	看護師:山口　一世

講義の概要および学習目標	健康障がいのある子どもと家族は症状や治療による苦痛や悲しみなどの体験とともに、それを乗り越えた達成感をもつ。 この科目では、疾病や障がいによる症状や生活環境の変化に対して子どもと家族が示す反応について、健康の段階や発達段階を考えながら理解する。その上で、病気の理解の仕方に合わせた関りや子どもの表現を助けるための看護の基本を学ぶ。また、障がいのある小児と家族の実際の生活を知る機会を持ち理解を深める。成長発達の特徴をイメージしながら健康障がいのある小児と家族へのコミュニケーションや説明方法の要点を学習する。 《学習目標》 健康上の問題を抱えた小児と家族への影響と支援について学ぶ。また、発達段階に応じたコミュニケーション、かかわりの基本を学ぶ
講義内容	1　子どもの発達段階の特徴と病気の理解 2　外来における小児と家族の理解 3　入院する小児と家族の理解 4　障がいのある小児と家族の理解 5　急性症状、慢性症状のある小児と家族の特徴 6　小児とのコミュニケーション 7　プレイ・プレパレーション 8　終了試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、 グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	小児看護援助論では病気や障がいを持つ小児と家族への理解を深めていきます。 小児看護におけるコミュニケーションを学ぶ際にはグループワークも取り入れていきます。 積極的に参加し小児看護の基礎を深めていきましょう。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 2)ナーシンググラフィカ　小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野　綾美　他／メディカ出版 3)こどもの病気の地図帳／鴨下　重彦　他／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野「小児臨床看護各論」／医学書院 2)小児看護学概論　子どもと家族に寄り添う援助／二宮　啓子　他／南江堂

必修科目(30)

科目	小児看護学 小児看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	看護師:矢野　玲枝 看護師:山口　一世 看護師:中 村　泉 臨床看護師

講義の概要および学習目標	健康障害の種類については、解剖生理学、病理学などの知識をもとに、病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んだ小児の健康障害と結びつけながら小児がその病気を体験している事実を見つめる。そして、小児看護概論で学んだ子どもの権利、一般的な成長・発達、小児看護援助論で学んだ病気のある小児と家族への理解と看護の基本をもとに、事例を用いて対象に応じた看護を学習する。 《学習目標》 1　発達途上にある小児にとって健康障害や入院・治療を受けることによって起こる諸問題を理解する。さらに、その小児の健康の段階に応じた看護と家族への支援について学ぶ 2　小児期の特徴に合わせた小児に特有な看護技術について学ぶ
講義内容	1　生命を維持する働きの障害　気管支喘息の小児と家族への看護 2　食物を消化・吸収する働きの障害　乳児下痢症の小児と家族への看護 3　小児に起こり得る事故と看護 4　生活をつくりだす働きの障害　上腕骨骨折の小児と家族への看護 5　外界と個との不適応現象による障害　熱傷の小児と家族への看護　(臨床看護師) 6　行動範囲を拡大する働きの障害　若年性特発性関節炎の小児と家族への看護 7　生命の連続性を維持する働きの障害　口唇口蓋裂の小児と家族への看護(臨床看護師) 8　統一体を支える血液の破綻による障害　急性リンパ性白血病の小児と家族への看護(臨床看護師) 9・10　小児に必要な看護技術 11・12　食物を消化・吸収する働きの障害　鎖肛の小児と家族への看護　(事例展開) 13　人間を統合する脳の働きの障害　てんかんの小児と家族への看護　(臨床看護師) 14　人間を統合する脳の働きの障害　発達障害のある小児と家族への看護 15　終了試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、グループ内評価、グループ別評価、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	事例に基づき、その発達段階の特徴を想起しながら看護を考えていきます。成長・発達の復習をして授業に臨んでください。また、本科目で取りあげる健康障害の種類は、皆さんも幼少期に経験したことのあるようなものも含まれています。自分の子どもの頃の病気や入院体験があれば思い出しながら授業とつなげていってください。また、臨床看護師からの講義も設けています。実際に入院している小児の貴重な事例を聞きながら、入院中の小児・家族の様子や、小児・家族へのかかわり方のイメージを膨らませて、自らの看護に活かしてください。 小児看護技術では小児期の発達段階の特徴に合わせた技術を提供するにはどのような知識が必要なのかを資料にまとめます。グループで調べたことを互いに教え合う体験を通して小児看護技術の学びを深めていきます。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 2)系統看護学講座　専門分野「小児臨床看護各論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 3)ナーシンググラフィカ　小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野　綾美　他／メディカ出版 4)こどもの病気の地図帳／鴨下　重彦　他／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1)新訂版写真でわかる小児看護技術アドバンス ／山元恵子監修　／株式会社インターメディカ

必修科目（31）

科目	小児看護学 小児看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	3年 前期	担当者	看護師：矢野　玲枝 看護師：中村　泉 保育士

講義の概要および学習目標	小児看護概論・小児看護援助論で学んだ一般的な成長・発達、子どもの権利、病気のある小児と家族への理解をもとに、小児期の特性を理解する。さらに、病態生理と治療Ⅳ(小児疾患)で学んだ知識をもとに、小児の健康障害についても事例を用いて看護の思考過程を使いながら個別の対象に応じた看護を学習する。 また、小児看護学実習とつなげて、実践トレーニングを取り入れ、臨床判断能力を養う。 これまで学んだ小児看護学や小児看護学実習をもとに、小児看護のまとめをおこない、自身の子ども観、看護観を発展させる。 《学習目標》 発達途上にある小児にとって健康障害や入院・治療を受けることによって起こる諸問題を理解する。さらに、その小児の特性(発達段階・健康障害等)に応じた看護と家族への対応について学ぶ。
講義内容	1・2　内部環境を維持する働きの障害　ネフローゼ症候群の小児と家族への看護（事例展開） 3・4　生命を維持する働きの障害　川崎病の小児と家族への看護　（事例展開） 5　生命の連続性を維持する働きの障害　ファロー四徴症の小児と家族への看護（事例展開） 6　生命の連続性を維持する働きの障害　ダウン症候群の小児と家族への看護　（事例展開） 7　療育支援が必要な小児と家族とのかかわり方　（保育士） 8・9　実践トレーニング　バイタルサインシミュレーション 10　実践トレーニング　危険予知トレーニング 11　終末期の小児と家族への看護 12・13・14　小児看護学のまとめ 15　終了試験
評価法	出席状況、課題(個人・グループワーク)への取り組み姿勢、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	事例から、その発達段階の特徴や健康障害から看護過程の展開を進めながら看護を考えていきます。小児の反応から発達の理解をし、子どもと家族のおかれている状況や環境を的確に判断し、こどもの権利を守りながら小児や家族へのかかわりを考えてください。また、本科目で取り上げている健康障害の種類は、小児看護の展開Ⅰに比べて難しくなります。小児期の特徴を踏まえて健康の段階に応じた看護も学んでください。 実践トレーニングでは、小児看護学実習とつなげて学んでいきます。自身の実践や体験を俯瞰し、振り返りながら事例の小児や状況の理解につなげていってください。 小児看護学のまとめでは、これまでの学習、実習等における体験から、活発に意見交換をし、子ども観、看護観を発展させてください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 2）系統看護学講座　専門分野「小児臨床看護各論」 ／奈良間　美保　他／医学書院 3）ナーシンググラフィカ　小児看護学①「小児の発達と看護」 ／中野　綾美　他／メディカ出版 4）こどもの病気の地図帳／鴨下　重彦　他／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1）小児看護学②　健康障がいをもつ小児の看護／松尾　宜武他／メヂカルフレンド社 2）小児看護学概論　子どもと家族に寄り添う援助／二宮　啓子他／南江堂

必修科目（32）

科目	母性看護学 母性看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	助産師:脇田由紀子 保健師

講義の概要および学習目標	次世代が健康に生まれ育つためには、さらに、人間が健康でいるためには、生涯を通して人間の性と生殖に関する健康が守られる必要がある。母性看護概論では、人間の性という視点から、母性看護の基盤となる概念を学び、母性看護の対象を現代社会における性の多様性や対象を取り巻く環境と合わせながら理解する。そこから、母性看護の役割を考えていく。 《学習目標》 １　母性看護の対象と特徴及び看護の役割について理解する ２　人間の性の多様性について理解する ３　近年の女性を取り巻く社会環境を知り、日本における法律や施策の現状を理解する
講義内容	１　母性、父性、親性 ２　人間の性 ３　女性のライフサイクル（思春期・成熟期・更年期・老年期）の身体的・心理的・社会的変化 ４　母子保健に関する法律、母子保健施策、社会の動向 ５　母性看護の役割
評価法	出席状況、課題、グループワークや共有会への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	自身の体験および授業をとおして、性について自己の考えを深める機会にしてほしい。日頃から、ニュースなど社会の動向に興味と関心を持ち、自己の考えを表現してほしい。そして、事前課題やグループワークなどでも、自己の考え、他者の考えを大切にしながら、ディスカッションし新たな知見を得てほしい。 ※基礎体温測定を課題にします。婦人体温計および記録用紙が必要となります。詳細については、初回授業時に説明します。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統看護学講座　母性看護学概論　森 恵美　他／医学書院 2）国民衛生の動向(2025/2026)／厚生統計協会 3）生涯人間発達論　第3版／服部　祥子／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 授業の中で紹介していきます。

必修科目（33）

科目	母性看護学 母性看護援助論	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	助産師：脇田由紀子 助産師：杉山　加苗

講義の概要および学習目標	本科目は、女性の一生を支えていく看護の基本について学んでいく科目である。女性のライフサイクルの思春期・性成熟期・更年期・老年期、各期において、女性がより健康に過ごしていくための看護について、健康支援と健康障害への看護の双方の視点から学んでいく。また、マタニティサイクルの看護を学ぶために必要な基礎知識を学んでいく。 《学習目標》 1　女性のライフサイクル各期の特性に合わせ、より健康に過ごしていくための看護について理解する 2　女性のライフサイクル各期に起こりやすい健康障害および看護について理解する 3　マタニティサイクルにおける生理的変化・心理社会的変化について理解する
講義内容	1　女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における健康支援 2　起こりやすい健康障害と看護 1）子宮がん 2）不妊症 3　マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）における生理的変化・心理社会的変化
評価法	出席状況、課題、演習、プロジェクト学習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	母性看護概論での学びをもとに性の健康についてより具体的に学んでいくための科目である。ライフサイクル各期について学んでいくため、小児看護、成人看護、老年看護での学びも活かしていく。また、母性看護の展開Ⅰ・Ⅱで学ぶ内容の基礎となり、母性看護学実習につながる科目である。内容に興味や関心をもって授業に臨み、知識・技術を身につけてほしい。
テキスト	書名/著者名/発行所 1）系統看護学講座　女性生殖器　末岡 浩　他/医学書院 2）系統看護学講座　母性看護学概論　森 恵美　他/医学書院 3）系統看護学講座　母性看護学各論　森 恵美　他/医学書院 4）生涯人間発達論　第3版／服部　祥子／医学書院
参考文献	書名/著者名/発行所 1）病気が見えるシリーズ⑨「婦人科・乳腺外科」／井上　裕美　他監修／メディックメディア 2）病気が見えるシリーズ⑩「産科」／岡庭　豊　他監修／メディックメディア

必修科目（34）

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	2年 後期	担当者	助産師:杉山　加苗 助産師:脇田由紀子 保健師

講義の概要および学習目標	本科目では、新たな生命を生み・育てる時期であるマタニティサイクルに焦点を当て、マタニティサイクル各期に必要な看護を学んでいく。母と子を一体として捉え、母子相互関係や心身ともに著しい変化を遂げる妊・産・褥婦・新生児の特徴を理解することが必要となる。また、家族関係を再構築する時期でもあるため、対象を広い視点でとらえていくことが大切である。 マタニティサイクル各期をつなげ、母と子がともによりよい経過をたどるための援助について、根拠を明確にし具体を考えていくとともに、マタニティサイクルに必要な看護技術を身につけていってほしい。 《学習目標》 1　マタニティサイクル各期において、母子がより良い経過をたどるための看護について理解する 2　マタニティサイクルにある対象に必要な看護技術を習得する
講義内容	1　マタニティサイクル各期における看護 1）妊娠期の看護　　妊婦健康診査・妊娠期における保健指導 2）分娩期の看護　　分娩期の観察・産痛緩和法 3）産褥期の看護　　進行性変化・退行性変化と看護 母乳育児支援・産褥期における保健指導 4）新生児期の看護　　新生児の生理的変化・日常生活援助技術 2　地域における母子保健サービスの実際　（保健師講義）
評価法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	妊娠・分娩・産褥・新生児は切り離して学ぶことはできない。母性看護援助論で学習した内容を復習し、授業に臨んでほしい。また、演習では実践をイメージしながら取り組むことで学びを深めていってほしい。
テキスト	書名/著者名/発行所 1）系統看護学講座　母性看護学概論　森 恵美　他／医学書院 2）系統看護学講座　母性看護学各論　森 恵美　他／医学書院 3）根拠と事故防止からみた母性看護技術　石村由利子／医学書院
参考文献	書名/著者名/発行所 1）ウエルネスから見た母性看護過程／佐世　正勝　編集／医学書院 2）病気が見えるシリーズ⑩「産科」／岡庭　豊　監修／メディックメディア

必修科目（35）

科目	母性看護学 母性看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	20	開講期	3年 前期	担当者	助産師：脇田由紀子 助産師：杉山 加苗

講義の概要および学習目標	本科目は、母性看護学における今までの学びを統合し、女性の性の健康を支える看護について学びを深める科目である。講義・演習は、実習をはさみ展開されていく。実習開始前には、マタニティサイクルにおける異常時の看護を学び、実習につなげていく。実習後は、実習で受け持った対象の看護を再考することで、母と子にとってよりよい看護とは何かを考えていくとともに、マタニティサイクルにおける看護の役割を明らかにしていく。 そして、最終的に母性看護学の講義・実習をとおして自己の考えを統合し、母性看護における自己の役割を明らかにしていく。 《学習目標》 1　マタニティサイクルにおける異常時の看護について理解する 2　実習での体験をとおして、マタニティサイクルにおける看護の役割を明らかにする 3　女性の一生涯における性の健康を支えるために必要な看護について考えをまとめ、母性看護における自己の役割を明らかにする
講義内容	1　マタニティサイクルにおける異常時の看護 1）腹式帝王切開術を受ける妊産褥婦の看護 2）低出生体重児の看護 2　マタニティサイクルにおける看護の役割 実習事例の再検討 3　女性の性の健康支援 「母性看護における自己の役割」について
評価法	出席状況、課題・演習への取り組み状況、筆記試験を総合して評価する。
受講生への要望	この科目は4月に周産期の異常について学ぶ。周産期の異常の理解は母性看護援助論・母性看護の展開Ⅰの学びと、病態生理学Ⅳの知識が基本となる。学んだことを復習し、講義に臨んでほしい。また、母性看護を学ぶ必要性を常に意識しながら、学生同士で体験や考えを共有しながら学んでほしい。
テキスト	書名/著者名/発行所 1）系統看護学講座　母性看護学概論　森 恵美　他／医学書院 2）系統看護学講座　母性看護学各論　森 恵美　他／医学書院 3）根拠と事故防止からみた母性看護技術　石村由利子／医学書院
参考文献	書名/著者名/発行所 1）国民衛生の動向／厚生統計協会 2）生涯人間発達論　第3版／服部　祥子／医学書院

必修科目（36）

科目	精神看護学 精神保健論	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	田辺　肇

講義の概要および学習目標	保健と福祉の結びつきがますます高まってきている看護実践におけるこころのケアについて、理論的、実践的、社会・文化・制度的な諸問題について理解する。 特に以下の点に焦点を当てる。 ・精神看護とこころのケアについての考えと援助のニーズ（と対象）の時代的変化 ・専門家（対人援助専門識者）の「こころ」のとらえ方と関わり方 ・さまざまな現場における精神看護実践の展開（看護師の役割の拡がり） ・医療、看護と精神保健福祉実践の歴史 ・入院患者の処遇と人権擁護
講義内容	1　精神障害と精神保健①：予防とレジリエンス・障害と人権・生活モデルとエンパワメント（1～2章＋別1章） 2　精神障害と精神保健②：危機理論・ストレス理論（2章） 3　心のはたらきと人格の形成①：意識・認知・感情・学習・知能・検査（3章） 4　心のはたらきと人格の形成②：精神力動論（3章） 5　関係の中の人間：家族システム論・グループプロセス（4章） 6　精神科疾患：精神症状と精神障害（5章） 7　精神科治療：精神療法と薬物療法（生物学的モデル）（6章） 8　社会の中の精神障害：歴史・文化・社会・制度（7章＋別2～3章） 9　ケアの人間関係：体験過程論・精神力動論・グループプロセス（8章） 10　回復を支援する：リハビリテーションとリカバリー・グループとコミュニティ（9章＋別4章）：一次予防と健康教育・社会資源・危機介入（ARMS・自殺・認知症・災害） 11　地域におけるケア①：地域における生活支援（アドボカシー・社会資源・当事者組織・ストレングスモデル・地域包括ケアシステム・アウトリーチ・家族・ピアサポート・危機介入）（10章＋別5章） 12　地域におけるケア②：学校・職場（10章） 13　入院治療：入院形態（任意入院・医療保護入院・措置入院）・退院にむけた支援（11章＋別6章） 14　精神科と身体ケア・安全・身体科におけるメンタルヘルス（リエゾン・コンサルテーション）・災害時のメンタルヘルス・看護師のメンタルヘルス（12～16章＋別7章）：貧困・虐待・依存・子ども虐待・引きこもり・DV・ハラスメント・自傷・犯罪/非行 15　まとめ・試験 ※“別”の章は、別巻「精神保健福祉」の章を示す。
評価法	試験（100%）
受講生への要望	テキストに沿って話をしますので、テキスト該当箇所を読んでおいてください。 毎回レスポンスシート（意見、質問、感想）の提出をしてもらい、それに応えながら講義を展開します。 皆さんが積極的にいろいろなことに関心をもって取り組んでいただけると、講義も盛り上がるので、よろしくお願いします。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の基礎」／武井 麻子ほか 著／医学書院 2)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の展開」／武井 麻子ほか 著／医学書院 3)系統的看護学講座　別巻 「精神保健福祉」／末安 民生ほか 著／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1）精神看護学 「精神保健」／太田 保之　他／医歯薬出版 2）精神看護学Ⅰ 「精神保健学」／吉松 和哉他／ヌーヴェルヒロカワ

必修科目(37)

科目	精神看護学 精神看護概論	単位	1	時間数	15	開講期	2年 後期	担当者	看護師:河内　友子 精神看護専門看護師

講義の概要および学習目標	精神看護学は、誰もがこころを病む可能性がある現代社会において重要な役割をもつ看護の領域である。看護師として、こころの健康と不健康について考えていくことは、自らのこころの健康を高めることにもつながる。 この科目では精神看護の基本的な考え方とこころを病む人の現実的な問題や生きにくさを理解していく。その上で臨地実習で活用できる実践的なこころをケアする方法論について学習する。また精神看護は精神科だけで行われるものではない。ゆえに精神科以外での看護、およびリエゾン精神看護についても学んでいく。看護とは、感情労働である。看護師のメンタルヘルスについて学び、自己のメンタルヘルスを考えていく機会とする。 《学習目標》 １　精神看護の特徴と役割を理解する ２　精神障がいのある人の生きにくさについて理解する ３　看護援助方法論の枠組みを理解し、活用できるようイメージする ４　自己理解／他者理解について学び自己を振り返る ５　精神看護における倫理的・管理的な問題を考える ６　リエゾン精神看護の実際と自己のメンタルヘルスについて考える
講義内容	１　精神看護の基本概念 ２　精神障がいのある人の理解 ３　精神科看護の特徴 ４　看護援助方法論の枠組み ５　リエゾン精神看護 ６　看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス
評価法	課題レポート、筆記試験、出席状況、授業態度による総合評価
受講生への要望	こころを病む体験は、普段の生活の中でもおこりうる。そのため、授業で取り上げる事例や内容が学生自身の体験を想起させることがある。こころの問題は自己の体験と結びつけ考えてほしい。しかし、それにより自分自身が追い込まれることのないよう適切な距離を保ち授業に参加してほしい。また本科目での学びは臨地実習で大いに活用できるものである。そのことを踏まえて学習に取り組んでほしい。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の基礎」／医学書院 2)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の展開」／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1) 精神看護学ノート　第2版／武井麻子／医学書院 2)感情と看護／武井麻子／医学書院

必修科目（38）

科目	精神看護学 精神看護の展開Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講期	3年 前期	担当者	看護師：河内　友子 精神科病院看護師

講義の概要および学習目標	本授業は、精神看護学実習の前後に展開される。実習前の講義では、精神障がい者の理解とその援助方法について学んでいく。学生の多くは、精神障がいを有する人との関わりを体験したことがない。そのため、関わりに不安を抱えているものも多い。そんな自己をみつめながら、具体的な援助方法を学ぶことで、精神障がい者との関わりに興味がもてることを期待する。 実習後の講義では、精神科認定看護師や病棟看護師から臨床現場の実際を学ぶ。自らの臨地実習での体験を活用することで、精神医療および看護の学びを深めていく。 ≪学習目標≫ １　精神科看護の技術（観察・コミュニケーション）を理解する ２　精神症状と治療を理解し看護について考える ３　精神障がい者の事例で看護過程を展開する ４　精神医療の現場を知ることで、精神看護について再考する ５　ロールプレイを通して実践的なかかわり方を体得する
講義内容	１　精神科看護の技術：観察・コミュニケーション ２　統合失調症患者の看護過程の展開＊幻覚妄想状態・無為自閉状態 ３　精神症状と看護：・・うつ状態・躁状態・強迫症状・摂食障害・アルコール依存症 ４　治療過程における看護：薬物療法・修正型電気けいれん療法・認知行動療法 生活技能訓練・レクリエーション療法 ５　対人関係論・セルフケア論 ６【演習】プロセスレコード・ロールプレイ ７　精神医療における看護管理 ８　医療観察法における看護の実際
評価法	授業の出席状況、課題の成果、筆記試験による総合評価とする
受講生への要望	授業の前半は、臨地実習で出合うことの多い精神障がいの疾患における看護を学んでいきます。自分だったらどうか、どう感じるのか、どのようにしたらよいかなど考えていきましょう。また、後半には臨床現場の方の講義もあります。実習での体験を想起しながら学んでいきましょう。科学的看護論を使っての展開技術では、既習の知識を使って対象の理解から看護の方向性まで捉えていきましょう。 精神障がい者との関わりに不安をもっている人も多いと思います。そんな自分も感じ、自由に表現してください。授業の中で不安が軽減され、主体的な学びができることを期待します。
テキスト	書名／著者名／発行所 1）系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の基礎」／医学書院 2）系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の展開」／医学書院 3）ナースが視る病気／薄井担子／講談社
参考文献	書名／著者名／発行所 1）患者理解への看護の視点／眞田清子　他／日本看護協会出版会 2）看護のための精神医学／中井久夫／医学書院 3）援助者必携　はじめての精神科／春日武彦／医学書院 4)看護場面の再構成／宮本真巳／日本看護協会出版会 5）精神看護学－学生-患者のストーリーで綴る実習展開／田中美恵子／医歯薬出版株式会社

必修科目（39）

科目	精神看護学 精神看護の展開Ⅱ	単位	1	時間数	15	開講期	3年 前期	担当者	看護師：河内　友子 精神科病院看護師

講義の概要および学習目標	精神医療の施策として、長期入院患者の地域移行と地域への定着支援があげられる。しかし、現場での課題は大きく、精神障がい者の地域移行は困難な状態が続いている。その現状を理解するとともに、実際に活用されている社会資源やサービスについて学ぶ。これらの知識と実習での体験を統合し、退院後、精神障がいをもつ人の「その人らしい生活」とは何かを考えていく。 また、精神障がい者を支える家族の存在についても学んでいく。家族の存在が、効果的に役割機能を果たすこともあるが、そうでない場合もある。当事者のみならず家族のおかれている実態を理解することから、地域で生活する上での家族の支援を考えていく。 ≪学習目標≫ １　精神障がい者を支える家族の実際を知ることで、家族への支援について考える ２　地域移行の現状と社会資源・サービスについて理解し、看護の役割について考える
講義内容	１　凝縮ポートフォリオ共有会＊精神看護学実習のまとめ ２　地域における精神看護 ３　生活を支えるための社会資源・サービス ４　精神障がい者を支える家族の実態と支援 ５　地域生活と訪問看護の実際 ６　退院後の生活に向けての提案書づくり　① ７　退院後の生活に向けての提案書づくり　②　発表会
評価法	授業の出席状況、課題の成果、筆記試験による総合評価とする
受講生への要望	本講義は、精神看護学実習終了後の講義となります。実習での学びを活かして、精神障がい者が地域で生活するための支援および支える家族について考えていきましょう。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の基礎」／医学書院 2)系統的看護学講座　専門分野 「精神看護の展開」／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1）コミュニティ支援、べてる式／向谷地生良、小林茂　編／金剛出版 2）家族ケア／岡本眞知子、萱間真美　編／中央法規出版

必修科目（40）

科目	看護マネジメント	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	看護師:瀧　泉 静岡病院看護部長

講義の概要および学習目標	看護管理は、よりよい看護をするためのものである。新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく。それは、看護過程を展開するように、管理においても組織の構造的な理解、問題の抽出、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護ができるのかを追求するプロセスと言える。 この科目では、看護管理（マネジメント）に必要な基礎的知識について学ぶ。 また、チーム医療を担う一人の看護師として、看護倫理について考え、倫理的葛藤とどのように向き合うか学んでいく。 《学習目標》 １　看護マネジメントに必要な基礎的知識を理解する ２　より良い看護を提供するための組織やチームを、看護の仕組みとしてとらえ理解する
講義内容	１　看護管理の中心的概念 「看護ケアのマネジメント・看護サービスのマネジメント」 ２　看護マネジメントのプロセス ３　組織としての看護サービスのマネジメント　組織構造と看護ケア提供システム ４　看護職としてのセルフマネジメント ５　看護活動に関する法律と制度 ６　看護マネジメントの実際 ７　看護実践と職業倫理　倫理的ジレンマ
評価法	課題レポート 筆記試験 出席状況
受講生への要望	数か月後には看護専門職になる皆さんです。看護師として医療の現場で働く自分の姿を描きながら、受講してほしいと思います。課題学習やグループワークも、実践家になる意識を強く持って取り組んでください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野 「看護管理」／上泉　和子 他／医学書院 2)系統看護学講座　　別巻 「看護倫理」／宮坂　道夫 他／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 授業の中で紹介していきます。

必修科目（41）

科目	医療安全	単位	1	時間数	15	開講期	3年後期	担当者	看護師:矢野　玲枝 病院医療安全室看護師 感染管理認定看護師

講義の概要および学習目標	臨床において、対象および自己の安全を守ることは看護の責務である。この科目では対象が安心して医療が受けられるように、そこに潜む事故のリスクを査定し、リスクを回避して安全で適切な看護実践のための知識・技術を学ぶ。 医療安全の基礎的知識を身につけるとともに、医療事故を論理的思考により分析する力、チームの一員としてメンバーシップを発揮できる力、および高いコミュニケーション能力を身につけることが求められる。現場の現象に目を向けながら、医療安全活動に積極的に取り組む姿勢をもてるよう学習していく。 《学習目標》 １　人の行動に潜むヒューマンエラーを理解し、自分もヒューマンエラーを起こす存在であることが理解できる ２　看護実践に潜む事故要因をアセスメントできる ３　医療チームの一員として安全のための対策とルールを厳守する必要性が理解できる ４　看護の対象の日常生活場面におけるリスクを回避する方法を考えることができる ５　医療安全における看護職の責任を自覚できる
講義内容	１　医療安全とは　医療安全に関する基礎知識 ２　医療事故発生のメカニズム ３　演習：根本原因分析（RCA） ４　組織における医療安全対策の実際 ５　組織における感染対策の実際
評価法	授業出席状況、授業参加態度、課題レポート、筆記試験
受講生への要望	・　授業は進度に応じた課題学習やグループワークがあるため欠席しないこと ・　新聞やニュースを見る等、社会情勢にも目を向けてほしい ・　臨床で看護師として働く自己の姿をイメージしながら主体的に参加してほしい
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野 「医療安全」／川村　治子／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 1）よくわかる看護職の倫理綱領／峰村　淳子、石塚　睦子／照林社 2）医療安全ワークブック第4版／川村　治子／医学書院

必修科目（42）

科目	災害看護・国際看護	単位	2	時間数	40	開講期	3年前期	担当者	看護師：矢野　玲枝　　瀧　泉 杉山　加苗 医師　臨床工学技士 臨床看護師 救命救急認定看護師

講義の概要及び学習目標	本科目では、災害や社会情勢、国際関係の中で起こる健康問題に目を向け、グローバル化の中に生きる現在の看護職者として様々な状況にある対象の看護を行えるよう、災害看護と国際看護の基礎的知識を学ぶ。 災害看護では、人間・地域・くらしの視点で、被災者支援、防災対策、地域全体への介入など、生活者を守る災害看護が果たす役割が重要となる。発災からの時間経過に伴い変化する対象者への医療ケア、生活にかかわるニーズを判断し、災害サイクルに合わせた看護師の役割と看護活動を提供するための知識・技術を学ぶ。 国際看護では、国境を越えて広がる感染症や環境汚染などによる健康被害に目を向けていく。それらの問題に対し、看護職者は、個々を取りまくグローバルな環境とその影響について理解し、個人をアセスメントしていくことが求められる。そのため、どのような問題が国際社会で起きており、その問題に対しどのように動いているかを知り、様々な状況にある対象の理解を深められるよう、国際看護の基礎的な知識を学んでいく。 《学習目標》 災害看護 １　災害看護の基礎となる災害の歴史・災害の特徴・法律や制度について理解する ２　災害サイクル各期の特徴、対象の健康障害の特徴をふまえた災害看護の役割と活動について理解する ３　災害時の救護活動に必要な技術について、基本的知識と技術を身につける 国際看護 １　文化的存在としての人間を理解し、自己理解を深める ２　国際看護活動の対象及び実際を知り、世界の健康問題について理解を深める ３　国際看護における自己の役割を明らかにする
講義内容	災害看護　１　災害看護の意義と災害サイクルに沿った看護活動 ２　災害種類別・対象別による被害・疾患の特徴 ３　災害医療における連携支援システム ４　災害サイクル別の看護 ５　災害看護の実際 トリアージ　傷病者の応急手当（一次二次救命処置・包帯法・搬送技術） 配慮を必要とする人への支援と看護 避難所運営ゲーム ６　災害を受けた人へのこころのケア 国際看護　１　国際看護学とは ２　自己理解・他者理解 ３　世界の健康問題と国際機関
評価法	終了試験・授業態度・演習への参加度
受講生への要望	日ごろから、社会の状況について興味をもって情報収集してください。また、この科目では多くの演習を行います。積極的に取り組み、たくさんのことを考え、学ぶ機会にしましょう。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座　専門分野 「災害看護学・国際看護学」／庄野泰乃　他／医学書院
参考文献	書名／著者名／発行所 授業の中で紹介していきます

必修科目（43）

科目	看護研究	単位	2	時間数	40	開講期	3年前期	担当者	看護師：松永　貴子

講義の概要および学習目標	看護研究はよりよい看護を実践するための知見を手に入れるために行うものである。つまり、研究を積み重ねていくことは看護実践の改善に欠かせないことであり、看護研究は理論と実践を結びついていくプロセスともいえる。また、研究は一部の研究者だけが行うものではなく、現場で働く看護師にこそできることであり、改善のために重要な職務のひとつとなっている。この科目では、ケースレポートとして、自らの実習での看護実践を振り返り、文献等を活用して看護としての意味や課題を明確にしていく。また、自らの看護実践の意味を明らかにするための根拠となる文献について、批判的思考を使って読み深めることも体験する。看護を研究する目的や方法を、実際にケースレポートをまとめるプロセスを体験しながら学んでいく。さらに、ケースレポートを発表する機会をもつことで新たな気付きを得て、自己の看護観を深め、この先の看護実践への手がかりとする。 《学習目標》 １　看護研究の意義・方法を学ぶ ２　実践した看護をケースレポートととしてまとめることで看護について考え、自らの看護観を深める
講義内容	１　看護における研究の意義 ー　研究とは何か、看護を研究する目的 看護研究における倫理的配慮 ２　看護実践と看護研究 ー　看護専門職への学習課題、看護を研究するための方法　ケースレポート ３　ケースレポート ー研究素材の構造分析・看護上の仮説とは 文献学習、文献検討（クリティーク） ４　ケースレポートの発表と検討 ５　グループワークによるケースレポートについての検討 ６　看護についての考えをまとめる（次の実習への課題の明確化）
評価法	課題への取り組み、グループワークへの取り組み、課題レポート（ケースレポート）、ケースレポートの発表と検討会での取り組みをルーブリックで評価する
受講生への要望	・　２年次「看護理論」で作成した「文献研究資料（8人の理論家に近づこう）」を参考にするので持参してください。 ・　２年次「看護理論」終了試験の答案用紙に書かれた看護場面の記述を教材にして学習するので持参してください。 ・　２年次の実習体験を教材として、ケースレポートをまとめる過程を体験的に学習するため、実習ファイルやノートも活用します。準備しておきましょう。 ・　研究への取り組みをより効果的にするために、グループワークを活用します。
テキスト	書名／著者名／発行所 １）系統看護学講座　別巻　看護研究/坂下玲子　他/医学書院 ２）Nice「看護理論」-看護理論20の理解と実践への応用－／筒井　真優美／南江堂 ３）科学的看護論　第3版／薄井　坦子／日本看護協会出版会
参考文献	書名／著者名／発行所 1)系統的看護学講座　専門分野Ⅰ　「基礎看護技術Ⅰ」　＜2004年発行　第13版第4刷＞ ／薄井　坦子／医学書院

必修科目（44）

科目	看護実践力アップ演習	単位	1	時間数	20	開講期	3年後期	担当者	看護師：宮田　芳衣 看護師：山口　一世 看護師：松永　しのぶ 看護師：松本　理恵

講義の概要および学習目標	この科目では、これまでの講義、演習、臨地実習での学びを統合し、臨床に即した状況下で対象に必要な看護を工夫しながら実践するための能力を高めることをねらいとしている。さらに、臨床での看護実践に必要な看護技術の上達を目指す。これからも成長し続けていく力を高めていくために、この演習を通して改めて自分の傾向や課題をみつめる. 《学習目標》 １　臨床に近い状況下において、既習の知識と技術を統合し、対象の状態・状況を解釈・判断しながら、倫理観に基づいた看護援助を実践する ２　卒業時の看護技術到達度を踏まえて、自己の課題を把握し、技術力を向上させる ３　自己の看護実践力を省察し、卒業後の成長につながる課題を見出す
講義内容	１. 看護実践力アップ演習とは ２. 緊急・想定外な事態や状況が起きた時に、どう行動していいかわかるようになろう！ ～事態や状況を把握し、初期対応・報告を行えるようになるためのトレーニング ３. 今ある情報からアセスメントを行い、限られた時間、物品の中で必要な看護を提供しよう！ ～模擬患者さんの回復がすすみ、安楽な生活が送れるためのケアを実践する ４. 臨床で使える看護技術力を目指して、向上させよう　！ ～卒業時の看護技術到達度を踏まえて、自分に不足している技術を練習する
評価法	事前学習 振り返りシート 出欠席
受講生への要望	基本的に学習や振り返りはグループで、実施はペアナーシングの形式で行っていきます。同僚や先輩と共に看護をしている自分をイメージし、取り組んでほしいです。この演習では初めて経験することが多く、うまくいかないことがたくさんあると思います。学生時代に失敗したことは成長のための大事な経験となります。うまくいかない時こそ、改めて知識を確認し、仲間との意見交換や指導者からの助言を活かしてレベルアップしていってください。 皆さんが練習したい看護技術を可能な範囲で、できるようにしたいと考えています。 要望を発信してください。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)「写真でわかる臨床看護技術①」／本庄　恵子　他／インターメディカ 2)「写真でわかる臨床看護技術②」／本庄　恵子　他／インターメディカ 3)フィジカルアセスメントガイドブック／山内　豊明／医学書院 他　知識の確認、対象理解に必要な教科書
参考文献	書名／著者名／発行所

VI. そ の 他

学校カウンセリング

カウンセリング	希望者	担当者	杉浦　真澄

学生へのメッセージ

臨床心理士の方に来ていただいています。
予約制で行っています。開室日程は、時間割で確認してください。

【場所】　本校2階　学生相談室

【開室時間】 15:00 ～ 16:30
（予約は、15:00 ～ 15:40 ・ 15:50 ～ 16:30の2回です。
予約があった場合には、急を要するような特別なことがない限り予約された方のための時間となります。
予約がない場合には、飛び込みの学生さんもOKです。）

【予約方法】
＊ 相談室のドアの予約用紙にイニシャルやマーク等、予約がわかる印を記入し、予約日時に直接相談室にいらしてください。）

カウンセリングとは、悩みや困りごとなどがある人の相談に乗り、対話を通じて本人の成長や問題解決のお手伝いをすることです。
悩みや困りごとと言っても、「最近モヤモヤしているんだけど…」「やる気が出ないな…」「忘れっぽい（ミスが多い）」「コミュニケーションが上手になりたい」など、なんでもOKです。「先生や友達には話しにくいけど、誰かに話したい」「何か良い解決方法はないかな？」など、そんな時には相談室があることを思い出してください。一緒に考えて、少しでも成長のお手伝いができたら嬉しいです。